

もったいない・おかげさま・ほどほどに、が環境と人間を育てる

# M・O・H通信

M・O・H communication

**特集:変革**「視点を変えれば世界が変わる」

23号

2009

Spring





# Vol.23

2009 Spring

## contents

### 目次

**特集「変革」**— 視点を変えれば世界が変わる

M・O・H対談 人生観—生と死のとりえ方  
**高齢化社会にむけて、養いたい心** 吉川隆一 & 森建司……………5

M・O・Hレポート— 住民の願いを叶える地域医療  
**わが町、わが家で人生の最期まで**— 畑野秀樹……………13

寄稿  
**「心・技・体」今年はいよいよ「体」をChange!** 花田真理子……………23

寄稿  
**『山里とつながる暮らし』のススメ** 清水安治……………26

M・O・Hレポート—2 滋賀県の逆転ホームランバッテリー!?「藤井組」インタビュー  
**知ったかぶりカイツブリ」まちおこしです!** 西川興……………29

M・O・Hレポート—3 ソラノネ紀伊國屋の料理教室  
**食への感謝を広げよう!** 松山剛士・石津大輔……………36

シヨート・シヨート  
**ふれあい 第十三回『いのちに感謝』** 中井一三雄……………42

ちよつとちよつと  
**真野モーニング** フライアン・ウィリアムズ……………43

M・O・Hレポート—4 中山道守山宿、広がる町おこしの輪  
**お寺の門前に、かつての賑わいを**— ……45

M・O・Hレポート—5 長屋再生もつたないプロジェクト  
**古い長屋も路地もまちの大切な資源** 清木たくや……………49

**環人会ツアーVoor.5「湖北地域の古民家再生」** ……52

表紙イラスト:関田紫野春菜。八幡商業高校2年、「朽木こども村」専属スタッフ。「草の根農業小学校」専属カメラマン。好きなものは玄米茶。「でも絵が描けるなら玄米茶はいらないです」

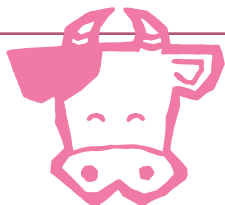


高島市泰山寺野の空

MOHせんりゅう

「賞味期限 切れたら捨てるのもったいない」  
 「もうもうと モンク言っるのは ほどほどに」  
 酒井範夫  
 奥野  
 「思ひはせ 感謝の心で いただきます」  
 杉本卓也

「異常気象」 三山 元暎……………56  
 「山村は雪が降っても大丈夫!!」(漫画)  
 オノ ミユキ……………57  
 「猫のワークシエアリング」 畑 裕子……………61  
 〈商家の家訓の話 第八回〉  
 近江大店の店員養成と人物評価  
 末永 國紀……………63  
 「人間の学」(森信三先生著)を読む その五  
 井上 昌幸……………65  
 MOHせんりゅう―2008ベスト4決定……………69  
 ごっこ遊びの道具たち 今関 信子……………71  
 講演日記……………73  
 MOHニュース……………74  
 イベント出展……………75  
 本の紹介……………76  
 MOH通信概要……………77  
 読者の声……………78



「MOH」のマーク=牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします。

★MOH通信の役割★

持続可能で豊かな循環型社会を築く社会人の意識を向上するためMOH通信は情報を発信し交流を続けます

- M** → **も**ったいない **循環** 他の生命を奪って得たものを使わせて頂く
- O** → **お**かげさま **共生** 人は一人では生きられない、環境によって生かされている
- H** → **ほ**どほどに **抑制** 欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために

変

■ 変革 — 「視点を変えれば世界が変わる」

世

昨今の深刻な経済危機について、まさに世界全体（言葉を代えれば「人類全体」）に関わる緊急の事態であるかのような報道が続いている。確かに成熟した経済社会の恩恵を受け、豊かな生活が保障されてきた社会（経済至上主義社会）を前提とすれば、まさに死の谷の断崖を見る思いのことだろう。

この危機を無視すべしというのではないが、これは経済の一部についての課題であるにすぎない。人類の存亡にストレートに関わる、自然環境の破壊状態まで意味しているのではない。私たちは、ことの重大さを履き違え、目の豊かなさを保障する経済問題の修復のみに視点が集中し、経済至上主義がもたらす自然破壊という重大なマイナスを先送りしてはならない。

かねてより、経済至上主義社会は資源枯渇・温暖化・環境問題・食糧問題などによって、行き詰まりを見せるであろうことは想定され、警告されている。

# 「幸せを実現する 価値観とは？」

森 建司

一方で、今回の世界的な経済危機は、経済至上主義の根幹を支える、金融面から見た資本主義の究極の到達点といえるであろう。「金融」と「自然・資源」は原因において違いはあるものの、経済至上主義社会の自己矛盾によって起こる事には変わりはない。主要国が、現在の経済危機を、様々な手法によって回避する事に成功したとしても、経済至上主義に固執しながら突き進んでいく限り、いずれ自然環境面からの破壊的現象に遭遇することは必至である。

それゆえ、われわれは経済至上主義から脱却し、持続可能型社会の構築を決意しなければならない。これは、社会体制の根幹に関わる「変革」であり、社会の価値観、倫理観を変えることに他ならない。物質的な豊かさを求めず、人々の幸せを念頭に置くことが肝要であらう。

その価値観とは「収入半分・支出半分・幸せ倍増」ではなからうか。



●対談

吉川 隆一 VS

森 建司

滋賀県健康福祉部 参与  
滋賀医科大学名誉教授

循環型社会システム研究所 代表

〈変革「視点を変えれば世界が変わる」— ① 〉

# 高齢化社会にむけて、 養いたい心

## 人生観——生と死のとりえ方

文明社会に生きる人々は、“死”をできるだけ遠ざけようとしてきたと言われます。しかし、“私”という個人主義や権利意識の発達した現代社会で、自分らしい死を望む人が増えるのは、自然の流れかもしれません。それとともに、少子・高齢化が進みゆく今、人々の“生老病死”のとりえ方にも、変化が起きつつあるようです。滋賀医科大学前学長の吉川隆一さんにお話をうかがいました。

■滋賀県立大学／彦根市

■2008年12月

## ”死“を受け入れることが 難しい時代

森 医師不足の問題や、医療トラブルをめぐって、連日のように何かしら報じられています。吉川さんは、この事態をどう思われますか。

吉川 私たちの親の世代は、命にかかわる状況でも、とにかく大きな病院で診てもらえれば、それで家族もまわりの社会も納得しましたよね。死ぬ、死なないは、また別の話で。ところが今は、医学もかなり進歩しましたし、その最先端を伝える報道量も物凄い。そのせいか、大きな病院で診てもらえば、良い結果が出て当たり前だと、期待が大きすぎるような気がします。ですから、病院で死ぬようなことがあれば、何か医者がミスをしたんじゃないかと、そう思う人が増えているのではないのでしょうか。

森 今の世の中、義務はさておき、権利はとことん主張するという人々が増えているといわれます。権利の意識が、治らないとおかしいと思わせるのでしょ

うか。

吉川 それもあるかもしれませんが、マスメディアの情報に躍らされている部分もあるかもしれません。例えば最近ですと、iPS細胞の話題が社会にぎわえています。自身の細胞から臓器の作製が可能になるかもしれないという。新聞等を読みますと、臓器移植の新時代が、もうそこまでやってきているような印象を受けますが、マウスでの実験に成功したからといって、マウスと人間のあいだの壁というのは、とても高く高いんです。臓器移植云々が実現するのは、うまくいっても十年以上先の話でしょう。しかし、医学への期待はどんどん高まりますから、このiPS細胞のレベルからすれば、自分の病気なんかすぐに治るはずだと思っただけではないでしょうか。おじいちゃんが出して肺炎にかかった。それで死ぬのはおかしいんじゃないかと、そう思う人が増えているんじゃないかと、森 臓器が作れるのに、肺炎が治せないなんておかしいと、いうわけですね。

## ■専門医志向と医師不足の関係

森 小児科の医師不足の問題を見ますと、昔は親子三代がお世話になるような、かかりつけのお医者さんがありましたよね。今も地方だと、そうだと思いますのですが、都会ではかかりつけの医師というのを持たない家庭が増えているのでしょうか。

吉川 たとえば新聞、雑誌等での健康相談でも、最後は「必ず専門の医師の診察を受けましょう」と括られています。その影響もあつてか、専門の医師でなければ駄目だという考え方が、特に小さな子どもを持つお母さん方を中心に広がっているように思います。つまり、近所のお医者さんの存在価値が薄まりつつあるんです。

森 私の世代の子育てだと、子どもが夜中に熱を出したら、これは危ないという場合もあります。おそろくほとんどは、それなら明日、お医者さんに診てもらおうと。そういう判断をつけてきましたし、それで手遅れになることもなかった。ところが今はそうじゃ



「医療が地域社会を支える時代です」

ないんですよ。とにかく病院だと。これは一つには、年寄りと同居する家庭が少なくなつて、経験でものを言つてくれる人がいなくなつたというものもあると思います。しかし、こうした専門医志向に、医療の現場は今後、どのように対応していけるのでしょうか。

**吉川** 専門医を揃えるには限界がありますから、その点でも変革が求められていると思います。今、社会保障費の年二二〇〇億円の削減を、二〇〇二年からずっと踏襲しているんです。限られたパイをどう分配するか、その方法も厚労省のお役人が机上で考えるのだけども、現場の現実とはマッチしないんです。だから、お達しの内容が毎年コロナと変わる(笑)。しかし、限られたパイというのは、変わりません。今後はさらに高齢者人口が増えて、病人が増えるであろうし、また若い人が減るといふことは、医療関係に携わる人材も無尽蔵ではないということですから。その中で医療のレベルを維持していくには、やはり社会全体で、いかに効率の良い医療の体制を整えるか、



それにかかってくると思います。

## ■高齡化社会の人生観を考える

森 日本が高齡化社会を迎えるにあたって、何か特別な“心づもり”が必要でしょうか。地球規模でいえば、人口問題がありますから、私は人間の平均寿命が伸びるのも、考えものだと思うのですが。

吉川 高齡者が増えるということは、死ぬ人が増えるということですから、少なくとも日本の場合、それで人口問題の量的バランスがとれると思いません。しかし、質的には今まで経験したことのない社会です。我々が子どもの頃は、近所でも老人の数は少なかったですよ。ところがこの先、三十、四十年後には、おじいちゃん、おばあちゃんばかりです。今の時代の人間がそういう社会に放り込まれたら、これはカンが狂います。しかし、社会は徐々に移行するのですから、それに慣れるのは難しいことではないと思います。日本の変化は、少々急激すぎるようです。

すが、私はわりとポジティブに考えてるんです。

森 二十世紀後半、日本は若い人で溢れていて、とにかく進歩を求めて変化した時代でした。今世紀の中頃からは、高齡者の時代がやってきて、何だか社会も穏やかになるのではないのでしょうか。そういうゆつたりとした環境での子育てもいいかもしれませんね。

吉川 逆にキレるおじいちゃんやおばあちゃんが問題になったりしてね(笑)。  
森 そうですね(笑)。

吉川 徐々に慣れながらも、今とは発想を変えなくてはならない事柄もあるでしょう。例えば、人の“死”についてです。高齡者が増えていって、病気になる人も増える。つまり、これから自分のまわりでも死ぬ人が増えていくという事実を、皆さん、生活の中で受けとめていってほしいと思います。今も亡くなる人の数は毎年増えていて、現在、一〇〇万人程度です。これがピーク時には一七〇万人程度にまで増えますから、死が身近になってくるんです。

森 しかし、今の社会はどちらかというと“不老長寿”の方を向いていますよね。

吉川 自分は死とは無縁だと思ってる人が多いでしょうね。というより、死というものを特別なものだと思いつぎではないでしょうか。本来、死とはありふれているものなんです。

森 現象としてはありふれたものかもしれませんが、個人にはたつた一度の死です。やはり特別なことになるのは仕方がないと思うのですが……。

吉川 おっしゃるとおり、誰もが自分は死なないと思ってるからこそ、生きていけるというのもあるんです。しかし、必ず死は訪れます。そうなること、どのように死んでいくかということ、これが個人の“特別なこと”になると思います。ですから、これからの時代は、本人もまわりも、最期は病院で医者まかせというパターンを望まなくなっていくのではないのでしょうか。

森 数年前に北欧の国々を訪問して、ホスピスでの終末期ケアの様子を視察する機会を得ました。それぞれの病室は、

患者さんがそれまで慣れ親しんでいた調度品で飾られ、訪れた家族もそこでリラックスしているんです。視察した一同、こういうところで死ねたらいいなあと（笑）。

**吉川** 自分が住んでいた地域、暮らしていた家で、命の最後を迎えるというのは、本人にとって一番幸せじゃないかと思います。今までは、家で死なせるのは可愛そうなことで、なぜ病院で十分な治療をほどこしてやらないのかと、そういう傾向にありましたね。

**森** 私たちの世代が親の死を見送る際は、それが親孝行でもあったんです。

**吉川** そうです。今も病院に入院させて、というスタイルは同じです。しかし、どうも親孝行という発想ではなくて、死を遠ざけるというのでしょうか……。  
**森** そう、特に子どもに死を見せたくないとか、自分も見たくないとか。

**吉川** しかし、これからの時代は、死を見る、死とも同居するという人生観が必要になるだろうと思います。

**森** 生もあり、死もあるということですね。

### 医療を主軸に地域を再生する、という考え方

**森** 死を考えるとということは、結局、家を思い、住んでいる地域を思うということになると思っています。だからこそ、地域社会に何かしら受け皿のようなものが、あってほしいですね。

**吉川** 私もそういう意味で、地域再生



「田舎の良さを見直して」森代表

について考えることがあるんです。田舎でよく医師不足の問題が言われますが、僻地といわれるような所では、医療現場だけでなく地域社会そのものが崩壊しているわけですよ。そういう社会に医者を置く余裕は当然ないわけで、やはり効率の良い医療システムを築く必要があるのです。そこで、医療・介護・福祉の複合コンプレックス（建築物

の集合体)を設け、医者がいて、高齢者が集まり、場合によってはそこで暮らせるような体制を整えて、医療を主軸

に地域を再生することができているのではないか。こういうことを考えて、現にそれを実行している医者もいるんです。

森 それはおもしろい。ぜひ取材に伺わなければ。

吉川 一つは米原市伊吹(旧伊吹町)です。身近なところにもそういう医者がいるんです。「彼」としておきますが、彼は医者として、地域の家すべてを守っているわけです。そして、曰く『医療によって地域を再生させたい』と。医療だけでは少し心もとない気もしますが、複合コンプレックスにすることで、昔でいう公民館のような、地域の中心になりえる場所を作ることがで

「健やかに死にましようよ」吉川元学長

ければ、その地域が再生する可能性はあると思えます。

森 なるほど。田舎は働くところが無い、子どもがいないと。たしかに崩壊している部分もあります。しかし、ご近所同士のつながりだとか、社会性はまだ保たれているんです。

吉川 そうなんです。滋賀県の場合、自宅で亡くなる「在宅死」の率が、毎年減少しつつあるものの、他府県に比べると高いんです。ということはつまり、地域社会がまだ残っているということが言えます。さらに言うと、家族が病人を支える、そういう家庭がまだあるということなんです。ですから、地域が崩壊しきっているわけではない。だからこそ今のうちに、在宅死の率を今より減少させないような対策が必要だと思えます。

### 効率一辺倒でない社会を支えるものは…

吉川 医療・福祉・介護について、これは公的な手段で対応できると思えます。



青空の下、未来を想う(滋賀県立大学にて)

しかし、在宅で死を迎えるためには、経済的な問題が大きく関わります。そこで、生活の糧を得るといふ点で、森さんのような経済、産業界の方々に考えていただきたいんです。産業界があまりに効率化ばかりを考えると、究極は日本の中に一箇所、巨大な工場ができて、生きる糧が得られるのは、その一箇所に暮らす人たちだけとなりますよね。

**森** その通りです。ですから効率一辺倒でない、地域に根ざした仕事や、自分の生き方を実践できるような仕事、そういう創造的なビジネスモデルをMOHでも取り上げてきたのです。そうしたビジネスを支えるのは、やはり消費者です。ですから、安い物を買うのが本当に得か、品質保証は一〇〇%メーカーの責任か、旬の時期だけでなく年中ずっと品揃えするべきか、そういうことを考える消費者が、一人でも増えることを願っています。私は消費者の変化が、地域再生の原動力になると思います。

**吉川** 消費者の変化と、医療を通して



地域再生を図りたいという思いが、どこかで結ばれてほしいですね。一人の医者のお思ひだけでは、いつか疲弊してしまうのではないかと思うのです。医療だけで人間の生活は成り立ちませんから、やはり新しい社会の生活の場が形成され、それぞれが連動しなければ、と思います。

森 本場にそうです。そのためには教育の力が大きいと思うのですが、最後に若い世代にむけて、何かメッセージをいただけますか。

吉川 私が滋賀医科大学の学長に就任したおりに、武村正義元知事と大学教育についてお話をさせていただきました。それで、色紙に何か一言をお願いしましたら、『すべての人は優れている』と書かれ、これが教育の原点だと言われました。私もそのとおりだと思います。だからこそ、一人ひとりに自

信を持って生きていってほしい。そして、その自信を引き出すのが、我々教育者の役割だと思えます。テストの点

健  
み  
死  
ぬ

2008.12.2

吉川隆一

●きつかわ りゅういち 1939年石川県生まれ。1963年大阪大学医学部卒業。医学博士。大阪大学医学部助手を経て、1979年滋賀医科大学講師。その後、助教授、教授を経て、2001年同大学学長に就任。2008年任期満了にともない退任。ベルツ賞（1980）、日本糖尿病合併症学会賞（2001、2005）、日本腎臓財団学術賞（2004）等を受賞。著書に「糖尿病性腎症」（南江堂／1998）、「これだけは知っておきたい、糖尿病で腎不全にならないために」（医薬ジャーナル社／2006）ほか多数

が悪いとか、試験に受からなかったとか、それで自分は劣等生だ、弱い人間だと思ひ込む子どもが多いんです。しかし、そうじゃないんだということを、まわりの大人が教えてあげなければ、強く思います。

森 本日はありがとうございました。

勇  
気  
凛  
々

いの壁を打た破れ

森  
建  
司

●もりけん 1936年滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新江州株代表取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会副会長など。著書「吃音はなある」遊タイム出版、「循環型社会入門」新風舎「中小企業にしかできない持続可能型社会の企業経営」サンライズ出版。

# わが町、わが家で人生の 最期まで



## 畑野 秀樹

地域包括ケアセンターいぶき センター長

### 住民の願いを叶える地域医療

今号に掲載の吉川隆一さん×森代表の対談の中で、“医療を主軸に地域の再生に取り組む”医師としてご紹介いただいたのが、地域包括ケアセンターいぶきの畑野秀樹さんです。「地域包括ケアは地域づくり」という理念のもと、畑野先生をはじめスタッフの皆さんが、地域住民の老・病・死をどのようにフォロー、ケアされているのか、お話をうかがいました。

■聞き手 辻村 琴美／本誌編集長

■地域包括ケアセンターいぶき／米原市春照

■2008年12月

高齢者は“先生”  
生きていることを伝える

辻村 地域の数だけ、地域医療の形があると言われるそうですが、こちらの地域包括ケアセンターいぶきでは、地域医療の確立に向けて、ユニークな理念を実践しておられるとうかがいました。

畑野 わかりやすく言えば、老いても家で暮らそう、家で死のうという意識を、住民に持つてもらおうと。そのためには高齢者が“先生”として、最期まで役割をもって働いてもらえるような、そういう米原市をめざそうということです。ですから、僕らが取り組むのはリハビリをして、家に帰す、畑に帰す医療や介護です。普通、こういう発想は医療にはありませんし、世間的にも、要介護認定を受けてリハビリをしている人が、畑に行くのはおかしいと、制限をしがちです。でも、高齢者はリハビリをするために生きているのではありませんから。その人にとって、畑に行くのが仕事なら、もう一度、それができるような支援をしたい。そし

て、入院はできるだけさせませんということ。あとは、命の大切さを子どもたちに伝えようと。これが大きなテーマになっています。

辻村 老いても家で暮らして、畑をして、それだけで何か伝わるものがあると思います。人生とは何ぞやの先生ですね。

畑野 寝たきりだった96歳のお婆ちゃん、この前、亡くなられたのですが、4人のひ孫がいるんです。その子たちが、死の瞬間もそばにいて、「おばあちゃん、しゃべらないよ」とか、「冷たいね」とか言いながら、頬をさわって。それを見ながら、この子たちは今、凄いい勉強をしているなと思いました。曾祖母の死を通じて、生きていることを学んでいる。大切なことが伝えられているんです。そういう命のリレーのような文化を、地域に息づかせたいというのが、僕らの思いです。

“お嫁さんを働きに出す”  
在宅医療を行う

辻村 家の中で生と死が繰り返される。それができるのは、伊吹の地域性も関係するでしょうね。ただ、自宅での介護は、家族が疲れ切ってしまう暗いイメージがありますが……。

畑野 確かに何十年と続いてきた地域があるからこそ、今、僕らの地域医療も機能しているんだと思います。入院をさせないというのは、おじいちゃん、おばあちゃんに介護が必要になったから、お嫁さんに仕事を辞めてもらおうと、そういうことではないんです。普通ならそう考えてしまうところを、お嫁さんに仕事を続けてもらいながら、どうやって僕らが支えていくか。そういう支援を広げていきたいんです。ですからイメージされるほど、悲惨ではないですよ。この地域で在宅医療をしておられる方のご家族を見ても、介護による疲労感とか深刻感は薄いです。なぜかという用語弊があるかもしれませんが、会わない時間を作るからです。訪問介護を利用してもらって、昼間、家族にはほとんど外出してもらおう。ほかにデイサービスやショートステイを

利用してもらってもいい。家族の負担を減らせば、お互いが元気でいられるんです。大切なのは、医療介護の支援をうまく利用してもらうことで、それをこちらから積極的に言ってあげることだと思えます。

**辻村** お医者さんはそういうことまで言ってくれないイメージがあります。それこそ、どういうお医者さんが地域にいてくれるか、ここだと畑野先生の存在こそがキーですね。

**畑野** それはわかりませんが（笑）。でも、それが自分の役割だと思っています。ある一軒の家は、以前におばあちゃんを家で看取りました。今度はその子どもさん夫婦の奥さんの方が癌になられて、今度は私をお願いしますと言われました。最期まで家で暮らして、家で亡くなるというのが、本当の幸せではないかと思うのですが、伊吹の多くの家庭では、それが守られているんです。でも、同じ湖北地域でも市街地だとそうはいきません。文化が違うんです。こちらの老健に入所されている方も、米原市内の人は比較的、退所後

は家に戻られます。かなり重症であってもです。でも、長浜市の人だと「家では無理です。次の施設を探します」と言われることが多いです。せっかくりハビリして歩けるころまで回復したのに、もつたないと思います。

**辻村** ある意味、孤立していると言えるかもしれませんね。

**畑野** センターの取材に東京から来られる方もいて、なぜだろうと思って聞いてみたのですが、首都圏で昔、ニュータウンと呼ばれたところが、現在、老人アパート化してしまっていて、その対策について相談に来られるんです。高齢化の深刻性については共通しています。が、首都圏の場合はさらに、一軒一軒が密室状態で、隣に誰が住んでいるかわからないという、まさに孤立しているんです。こちらへんは地域の関係が密なので、その点では救われています。

**病気を治すより、  
元氣をつくる医者でありたい**

**辻村** 吉川先生と森代表の対談では、

患者さんの専門医志向と、身体をパーツとして捉える感覚が強まりすぎて、それが逆に医療への不安、不信感を招く要因になっているのではないかと、うお話になったのですが。

**畑野** おそらく70代ぐらいまでの人は、パーツを治しに病院に行こうと、そういう意識で良いと思うんです。しかし、それより上の年代になると、パーツだけではないですよ。例えば、心臓のほかに手足のしびれや腰痛や糖尿病と、複合体になります。こうした全体的な症状を治す医者は病院にはいないと僕は思うんです。つまりパーツを診ても、人を診ていない。もちろん専門的にパーツを診る医者も必要です。でも、それだけだと救われない患者さんが必ずいるでしょ。認知症なんて治らない病気もあるのですから。そうすると、高齢者に求められるのは、病気を治すというより、元氣をつくる医者なんです。

**辻村** なるほど。吉川先生からは「医療によって地域を再生しよう」と、そういう大きな発想で、実行しているお医者さんがいる」とお聞きしていたんです。



明るく、木の温かみがある施設



リハビリがこの施設の  
中心となっている



家に帰って自分のことは自分でできるように

畑野先生は、元気をつくる医療介護を、町づくりまでに発展させようと、そういう思いでおられるのですね。

**畑野** 患者さんを元気にしたいと思ったら、家族が元気でいてくれないと駄目でしょ。そのためには、まず地域を元気にすることだと思っんです。僕はそういう意味で町づくりがしたい。限界集落もある地域です。決して自然に

人口が増えていくこともないし、放っておいたら過疎化が進んで、住民は元気を失ってしまいます。でも、この地域に住んでいて良かったと、そういう気持ちやプライドを持つてもらえたら、地域全体が良くなっていくのではないのでしょうか。在宅医療により家の中に老・病・死があるということは、家族のつながりを深め、思いやりを育みます。そういう住民文化のようなものを広げていって、いずれは米原市全体で、思いやりの地域づくりができればと、思います。

### 伊吹地域の住民とともに歩んだ15年

**辻村** 今のようには地域に密着した医師になろうと、もともとからそうお考えだったのですか。

**畑野** もともと診療所がしたかったんです。平成5年に伊吹診療所に赴任して、本来は3年間で勤務移動する予定でした。でも3年の間に、この町を良くしようという熱い思いの人があちこ

ちにいるのに気づきました。そういう人たちが親しくさせてもらううちに、この地域が好きになって、面白くなってきました。それで県にお願いして、15年間ここにいます(笑)。

**辻村** 赴任当時から、この伊吹地域は、いわゆる病院信仰とは無縁だったので、すか。

**畑野** 僕が赴任した頃はまだ、一度くらいは大きな病院に連れて行かないと、世間体が悪いという空気がありました。でも今は、病院に入院していても家に帰りたい、伊吹で過ごしたいという流れになってきています。在宅で亡くなる人の数も多いですよ。一般には病院(施設)死8割、在宅死2割と言われますが、ここでは在宅死が3割、4割まで増えてきています。

**辻村** 日本では、70年代の半ばに在宅死と病院死の比率が逆転したそうですが。ところが今、病院や施設で最期を迎えるのが本当の幸せかと、在宅死を望む声が増えていますよね。

**畑野** 今の日本人は、死が最後だと思っっています。僕も死んだら終わりやん



若い医師の育成は  
「琵琶湖の稚鮎作戦」で

辻村 こちらのセンターでは、研修医の受け入れも積極的に行われているそうですね。

畑野 滋賀医大や長浜市民、長浜日赤をはじめ、東京北社会保険病院、横須賀

うわまち病院など、都会からの研修医も多いんです。家に帰す、畑に帰すという視点はこれまで無かったから新鮮だという意見が多いですね。地域医療だからこその、元気に過ごしてもらうという発想に立つ医者が増えていくって欲しいと思っていますが。

辻村 先生は指導者であり、地域医療



訪問看護ステーション

の医師という生き方のモデルでもあるわけですから、役割は大きいですね。

畑野 大きいといいですね(笑)。実は「琵琶湖の稚鮎作戦」と呼んでいるのですが、ここで医師として少し大きく成長してもらって、全国に散らばってもらうという、そのための役割も果たしていくべきだと思っています。病気を治す医者も必要だけれど、治らない病気もある。それだけでは困るといふ人が沢山いる。そうした人たちが、いかに生きるかということを考え、支えられる医師に育ってほしいと思います。

辻村 私たちは地域医療や僻地医療の医師というと、赤ひげ先生やドクター



## 〈変革 — ②〉

コトーといった、タフで人間味あふれる人物を思い浮かべます。畑野先生もそのタイプですね(笑)。でも、この15年間を振り返って、しんどい時期もあったのでしょうか。

**畑野** 3年前にこのセンターができたときが、一番しんどかったです。診療所に加えて、老健、デイケア、シヨート



寄り添うことがケアの基本

ステイの複合施設になって、どんな老健にするのか、まるでわからなかったです。スタッフも、それまで6人だったのが、いきなり60人に増えて、人の動かし方のノウハウもなかった。診療所の所長からセンター長になって、自分が見たくないことも、やらなければなりませんしね(笑)。

**辻村** 老健というのは、病院から在宅に帰すことを目的とした中間施設なのですよ。でも実際には、在宅復帰をめざすばかりではないのでしょうか。

**畑野** この老健は、入所期間は3ヶ月まで、シヨートステイも月の半分までと限度を決めています。要するに終わりがあるんです。だから、終わりに向かって入所者も、リハビリをがんばろうという気になってくれる。他の老健を見ていると、割とゆったりと過ごしてもらうところも多いですね。特別養護老人施設に入所するための待機施設になっている場合もあります。

**辻村** 老健ごとに、性格も違ってきてしまうんですね。

**畑野** そうですね。この老健には「入所者を家に帰す」「地域支援を行う」という理念があつて、実際にそれを実践している点が、他の施設とだいぶ違うところだと思えます。幸い、うちのスタッフの定着率は高いのですが、それは理念の実践があるからだと思います。

**辻村** 終わりがあつたというの大きなポイントですね。でも中には、そんな

うるさいこと言わんと…、みたいな圧力はなかったですか。

**畑野** 最初はお叱りの言葉もかなりありました。なぜ3ヶ月しかいられないんやとか、そんな施設ではあかんと。一旦、入所したらずうっと面倒見るのが、こういう施設の仕事をやること。

**辻村** それに対して先生は、どう対応を？

**畑野** ここは家に帰すためのリハビリ施設だから、方針は変えまないと。それががんばっているうちに、最近では「リハビリをするなら伊吹だ」という定評をいただくようになりました。ようやく施設としてのあり方や、存在感を示せるようになってきたと思います。

**辻村** そういう方針は、先生がお決めになるのですか？

**畑野** いいえ、皆で相談しながらです。地域医療の理念は、スタッフ全員が持っているスタンスですから。センターの開所当時、僕は結構悩んでいましたので、最初の1、2年は、本当に皆の力に支えられてという感じです。最近になってようやく、伊吹の地域医療は

面白いことをやっていると評価をいただくようになって、ああ、これでいいんだなという自信が出てきました。

### 今後の課題は「生」のケア。 若い世代に向けた町づくりを

**辻村** では今後、さらに豊かな地域づくりに向けて、地域包括ケアセンターいぶきの目標をお聞かせください。

**畑野** 目標というか、やらなければいけないと思っているのが、子育て支援です。地域づくりということから言えば、ケアセンターいぶきは、生老病死の中の「生」について、今はまだ不十分ですから。うちのスタッフのことを考えても、育児休暇がもつたいないとか、預かってもらえる施設が足りないという声があるんです。だったら、ここで保育事業をしたいです。できれば、伊吹、山東地域の学童保育とドッキングして、この施設内の空いているスペースを利用しての方向で。さすがに出産は無理でも、赤ちゃん、幼児、学童と、それぞれの段階の住民を巻き込んで、こ



訪問診療では高齢者に語ってもらう

こでなら安心して子育てができると。そうなれば、若い世代にとっても住み良い町づくりができるはず。逆にそこを支援しないと、過疎化が進んでいくばかりですから。

**辻村** いいですね。このセンターの前は、伊吹山の堂々たる眺めで、それが大きなお寺の大屋根のようにも見えます。その大屋根の下で命が繰り返される。畑野先生とスタッフの皆さんは、地域の元氣と幸せを守るチームです。



◎米原市の概要……2005年2月に坂田郡伊吹町、山東町、米原町が合併して米原市が誕生。同年10月、新たに坂田郡近江町が編入して現在の市勢になる。総人口は約4万500人。高齢化率は24.8%（平成20年10月現在）と高率であるが、旧伊吹町地区の北部では過疎化が進み、50%を超える集落もあるなど、地域差が生じている。

◎地域包括ケアセンターいぶき……米原市の公設施設として2006年4月オープン。社団法人地域医療振興協会が管理運営を行う。旧伊吹町時代に施設建設計画の骨子ができていたため、米原市の中心部から離れた山間部に医療・福祉の拠点として誕生。外来診療・出張所診療（旧

伊吹町内に4カ所）・訪問診療・訪問看護・居宅支援・デイケア・老健（介護老人保健施設）・リハビリの複合施設。老健施設の利用定員は入所者60人（うちショートステイ30人）、通所者1日20人。現在の医師数は4名。

●地域包括ケアセンターいぶき  
〒522-10314 滋賀県米原市春照  
581  
TEL: 0749-58-1222 (代)  
FAX: 0749-58-8006  
<http://www.biwane.jp/hatabo/>  
※センターの詳細な情報に加え、畑野先生個人の趣味・日々の所感・伊吹の観光情報などを掲載しています。

●はたの ひでき 1964年滋賀県余呉町生まれ。県立虎姫高校から自治医科大学医学部に進学。1989年に同大学を卒業。同年に滋賀県立成人病センター研修医、1991年に湖北総合病院内科、1993年に国保伊吹診療所所長を経て2007年から現職。米原市在住。

地域包括ケア  
畑野 秀樹  
2009.12.16

どうぞお体を大切にがんばってください。本日はありがとうございました。  
畑野 ありがとうございます。

寄稿

〈変革「視点を変えれば世界が変わる」— ③〉

# 『心・技・体』 今年はいよいよ 『体』をChange!

花田 真理子

大阪産業大学 人間環境研究所 教授



高校2年生の耕ちゃんが友達となにやら夢中で話しながら帰ってくる。庭の菜園に出ていたお隣りのおじさんに声をかけられました。

「やあ耕ちゃん、おかえり。ずいぶん熱心に話し込んでたね。お友達かいっ」

「あ、おじさん、こんにちは。こちら、2年生の初めに僕のクラスに転校してきた寄鳥さんです。」

「寄鳥さん、こんにちは。」

「緑ちゃん、このおじさんにはいつもいそいそと教えていたらしいんだ。今のごと、ちょっと相談してみようか。」  
というわけで、おじさんの畑から採れたユズの砂糖漬けをつまみながら、縁側で3人の話が始まりました。

「実はねおじさん、僕たちの学校では去年4月に、今年和省エネに取り組みうってことになったんです。ほら、去年は7月に洞爺湖サミットがあったでしょう。それで、地球温暖化防止に日本中で取り組みまなぐちゃんがないからって。で、ちよつと転校前の学校でも省エネ活動してきた緑ちゃんと僕が、省



エネルギー”になって、ここまで頑張ってきたんです」

「かむかむ（モグモグ）」

「まず、私たち、『誰もいなくなる教室の電灯、照明、電化製品のスイッチや電源は消しましょう』とか、『エアコンの設定温度を調節しましょう』とか、全校集会で何度も呼びかけたり、ポスターを貼ったりしてきました」

「この緑ちゃんは絵が上手だから、かわいイラスト入りで、電気スイッチの所に『節電ボーイ』、水道の所に『節水ガール』のシールを貼ったら、結構評判になったんです」

「へえ、おじさんも一度見てみたいなあ」

「それから、電球が切れたら白熱球じゃなくて電球型蛍光灯に交換してもらうように、学校に頼みました。最初は『蛍光灯は高いからなあ』とおっしゃっていた先生も、こっちの方が長い目で見れば得です、と説明したら、よくわかってくださって、なんと新学期にはトイレに人感センサーが付くことに

なっただんですよー」

「じんかん……神戸から持ってくるのかいっ」

「おじさん、それは異人館！ 人感センサーというのは、人の動きを感じしてスイッチが入ったり切れたりする便利な道具なんです。トイレも人が入ると照明が点いたり、便座のフタが開いたり、いなくなると自動的にスイッチオフ」

「ふうん、機械まかせの消し忘れ防止か。ますます頭を使わなくなっちゃう気もするがねえ。ま、今はいろいろと便利な道具ができてきてるって訊いたな。で、お二人さんの省エネ活動は、順調みたいじゃないか。何を悩んでるんだいっ」

「この前、他の高校の文化祭に行ったら、灯りも点けっぱなし、エアコンも入れっぱなし、もつそれはすごかったです。で、いくら僕の学校で頑張っても、ほかがどんどんCO<sub>2</sub>を出したら、社会全体として温暖化が進んでしまっんじゃないか、と思ったり、僕、

ちょっと空しくなってきたんです」

「でもね、おじさん、私が前にいた学校では、電気代や水道代を減らしたら、減らした分の何割かのお金で、緑化の苗を買ったり、校庭にバスケットゴールのポールを立てたりできたんです。だから毎年、今年もっと減らそうって、みんながいろいろ工夫しましたし、何といってもみんなでこれだけ減らしたぞ、っていう達成感とかがあって、なんかすごく学校が好きになりました」

「そうか、緑ちゃんがいた地域では、『ファイティ・ファイティ・プログラム』をやっていたんだね」

「なんですが、それは、ファイティが50っていうのはわかるけど」

「『ファイティ・ファイティ・プログラム』というのは、公立学校の生徒と先生達が一緒になって省エネ対策に取り組む、その結果削減できた光熱費や水道代の一部を、自治体が学校に還元するものだ。ドイツでこのプログラムが始まった時、削減分の半分を学校に戻したので、学校と自治体で半分半分、

という意味の名前がついてるんだ。もしもこのプログラムが無いと、節約できた経費はすべて自治体の財政に戻されてしまつたら、頑張っても頑張らなくても学校には影響がない。だけこのプログラムなら、たくさんの方が頑張つて減らしてくれるから、自治体の経費節減にも、温暖化防止にも効果がある」

「そうか、そのシステムなら、頑張っている所が報われますよね。それなら僕もすぐ納得できるよ」

「それに、私がいた学校では、全校生徒が省エネ活動の意味を理解できて、すごく環境教育になっていたと思います。そこでは、戻ってきたお金で太陽光パネルをつけたり、緑化をしたから、さらに省エネが進んだんです」

「それはすごいね。実は、君たちが悩んでいる問題は、日本全体でもおち当たっている大きな壁なんだよ。ほら、1日/1キロ削減運動とか、省エネを呼びかけるコマメちゃんとか、一人ひとりの心がけを呼びかけたり、生活を振り

返ってみる動きはすごいぶん大きくなってきた。それから、省エネ効率の高い家電製品や新しい技術もすごいぶん出てきているしね。これらは、『心・技術』の『心』と『技』だ。この数年で、この2つはすごいぶん変わってきた。でも、もう一つの『体』、つまり社会のシステムが変わらないと、本当に温暖化防止にはならないんじゃないだろうか」

「例えば『フィフティ・フィフティ』みたいに、努力している人が報われるようなシステムになる、とごうことですか」

「そうそう。ほら、家庭からの『ゴミ』だつて、たくさん出す人も少ししか出さない人も、同じように税金で処理するのは考えてみると不公平だよ。それに、無料のままだと、『ゴミ処理にお金がかかっていることすら気づかない。だから、CO<sub>2</sub>を出すことだつて、ちゃんと評価して、減らした人の努力が報われるようなシステムに変えていくことが、絶対に必要なんだ」

「おじさん、オバマさんみたいだね。」

いまこそ社会という『体』を『CHANGE!』

というわけで、二人はおじさんの畑の大根をもらつて帰りました。その晩、大根はそれぞれ温かい風呂吹き大根とみぞれ鍋に華麗にCHANGEしました。さて社会はどつてでしょうか。今年はいよいよ社会システムの変革の年。『体』の『CHANGE!』の出番です。すよね、みなさん!

## 花田真理子

●はまだ まりこ II 大阪産業大学人間環境学研究科教授

〈専攻〉

◎環境経済論(経済と環境の両立可能性に関する実証研究)

◎環境「ミニニケーション」(各経済主体を環境配慮へ動機づけるための行動科学的研究)お得意しく美しく!

◎環境教育プログラム開発 協働による地域つくりの実践

寄稿

〈変革「視点を変えれば世界が変わる」—④〉



近くの雑木林でストーブ用の薪割り体験

# 『山里とつながる暮らし』のススメ

清水 安治

湖北古民家再生ネットワーク  
安曇川流域・森と家づくりの会

都会で暮らすあなたに問いかけたい「疲れませんか？」  
リストラ、賃金カット、複雑な人間関係、コンピュータに囲まれた日常、希望が見えにくい今日……。便利で快適な生活に「？」と思ったあなた。こんな暮らしもありますよ。  
不便で体力を必要としますが、自然のいやしがオマケでついてくるかも知れません。



近くの山の杉の木で建てた住まいを見学

**Q:**「あなたにとっての持続可能な暮らしとは?」

**A:**「農を基本とした暮らし」

「地域とかかわりながら生きる」

「幸せな気持ちで毎日いられること」

「人と人のつながりを大切にする暮らし」

「道具を大事に100年使えるものを選ぶ」



薪ストーブの煙が上がる移住者の家

安曇川中流域の山里の集落へ中学生から60才代の夫婦まで約30名が訪れた。

近くの山の杉の木を使った伝統的工法で作られた真新しい家で薪ストーブの暖をとり、いにしえより集落の水源でもあった湧き水を汲む。山へ分け入り、かつては水田の堆肥となる雑木の新芽を刈り取ったというホトラ跡で薪割り。

地域に受け継がれてきた環境や伝統を見つめ直し、持続可能な暮らしについて思いをはせた参加者の声は多様だが、まなざしは同じ方向だ。

古民家の黒光りする梁と柱の板の間で、琵琶湖環境科学センター長の内藤正明先生を囲んだ座談会では、時代を先取りするメッセージに参加者は刺激を得るとともに共感した。

「美しいものを手に入れるために、私は何を捨てることができるだろうか」と、先生のお話をうかがって自身に問うてみようと思いました」

「先生の社会観、型破りな考え方とその実行力に、大変勇気づけられました」  
「かなりキワドイ表現もありました」



集落住民の飲み水としても使われている湧き水

都市住民が移住した古民家



古民家で開催された内藤先生の講演に聞き入る参加者



琵琶湖環境科学研究センター長の内藤先生の講演

が、衝撃を受けました」

この山里の集落で、普通に営まれてきた自然と共生した持続的な暮らしを再評価するとともに、時代を先取りする感性を織り交ぜながら次の世代につないでいくことが、地域の未来をつくるはじまりとなる。

「つないで、つむいで、つくる」

## 清水玄治

●しみず やすはるは2011年、高島市生まれ。自宅の改修をきっかけに古民家再生の魅力を知り、ライフワークとして県内各地で再生に取り組む。民家の古材を活かすとともに、近くの山の木を使うことで、地域の資源にこだわった家づくりをめざしている。「湖北古民家再生ネットワーク」「安曇川流域・森と家づくりの会」メンバー。滋賀県総務部自治振興課職員。一級建築士。

連絡先 y-43zu@guitar.onn.ne.jp

# 知ったかぶりカイツブリ♪ まちおこしです！



## 西川 興

藤井組 監督

株式会社まちおこし 代表取締役社長

### ● 滋賀県の逆転ホームランバッター!? 「藤井組」インタビュー

滋賀県で今一番の人気者といえば、CM枠のヘビーローテーションや毎週金曜と土曜の夜、びわ湖放送に登場する滋賀県産のアニメ歌『知ったかぶりカイツブリ』。滋賀県のあるあるネタや方言を題材にした思わず共感の歌詞と、癖になりそうなメロディにハマっている人も多いのでは？ 一連の作品を手がける藤井組監督こと、株式会社まちおこしの代表取締役社長・西川興さんに、番組がスタートした経緯やキャラクターの誕生秘話、快進撃の舞台裏をお聞きました。

■インタビューー 辻村 琴美 本誌編集長

■藤井組所属事務所 株式会社まちおこし／守山市吉身

■2008年 12月

## 『まちおこしをビジネス化した 『知ったかぶりカイツブリ』』

辻村 藤井組さんの仕事場が守山市と知って驚きました。コンテンツビジネスでは、東京や大阪との距離はハンデイにならないのですか。

西川 はい、ぼくらのお客さん（クライアント）もほとんど東京ですから、やはり東京中心の業界なんです。良い仕事を沢山やっついこうと思うと、滋賀県だと地の利が悪い。去年、東京にオフィスを移そうかという話も持ち上がったんです。でも、そのときに、東京に出ることが僕らにとって本当に幸せなのかと、ふと考えました。男性社員は単身赴任、女性社員は独身で実家から通勤している者が多いから、一人暮らしをさせることになる。「それはどうなんだ？」と考えて、結論としては、東京なればこそ、という仕事はいまのペースでおいおいやっついこうと。反対に、今だからこぞできる。滋賀県に密着したコンテンツを作って事業化する。ことに挑もうと、そう決めました。

辻村 滋賀県で事業化が前提となると、私なら、難しい…と思うでしょうね。昔、関西では情報やクリエイティブに金は出さん、という会社が圧倒的に多かったけれど、今でもそんなに変わらないでしょうし。

西川 でも、僕はビジネスになると思っただけです。キャラクターを使った地域密着型コンテンツで、キャラクタービジネスが展開できるんじゃないかと。ただ、インターネットで地域密着型というのは難しいんです。やはりそれにはテレビの力が絶大だと思い、そこで、僕が思うに滋賀県で一番のメディアであるびわ湖放送さん（以下、BBC）に今年の6月、『まちおこしをビジネス化しましょう』というお話をさせていただいたんです。

辻村 まちおこしですか。なるほど。たしかに『知ったかぶりカイツブリ』は、滋賀県の営業部長のような活躍ですものね。

## コンセプトの設計図を、 いかに緻密に描くか

西川 僕らのまちおこしのコンセプトは「おもしろい」なんです。これがまずありきじゃないと、共感も生まれにくいし、流行にもならない。キャラクターは県鳥のカイツブリ、内容はアニメ歌と徐々に固まりだして、そこから先、これまでの経験でいえば、クリエイターがいかにクリエイター然としたものを作ってしまうと、テレビを見ている人は、押し付けがましく感じるんです。

辻村 トンがりすぎは、ポピュラーにならないということですね。

西川 ええ。僕は今、参加型のものづくりが、特におもしろいと思っています。でも、歌詞を丸ごと募集しますでは、失敗の元になりかねない。あくまでインスピレーションを皆さんからどんどん求めて、おもしろいムーブメントを作る方向性をめざそうと。それで、滋賀県のあるあるネタだったら、皆さんも参加しやすいだろうということ、生まれた第一弾が『知ったかぶりカイツブリ告白の唄』なんです。

辻村 お話を聞いていると、選択と制限と

いうのでしょうか。これでいく、これはここまですと、その繰り返しで作品を作っているんだなという気がします。

**西川** 今、お話ししていることは、表現のための設計図なんです。この設計図をいかに緻密に描けるかが、プロとしての力量だと思えます。表現そのものは「滋賀県っておもしろいよね」でも、設計図には、まちおこしの参加性や持続性、発展性についての構造がきちんと描かれている。そこが一番大切だと思います。

## アピール下手 と言われた 滋賀県の逆転 ホームラン!?

♪知ったかぶりカイ  
ツブリ告白します

帰りの電車で山科  
過ぎたら



途中でそれて湖西線と知りました

長浜ラーメンは福岡でした♪

へ「知ったかぶりカイツブリ 告白の唄  
！」より抜粋

辻村 最初に耳にした感想は、今まで自分たちのことをアピールするのが下手だ、下手だと言われ続けた滋賀県が、

こんなに可愛く面白く、自分たちのことを歌っている！（笑）

**西川** ありがとうございます。いまどきの若い子たちにウケることも狙いつつ、それ以上に大切にされたのが、子どもたちへのアプローチなんです。口ずさんでくれて、愛してくれて、大人になったとき、子どもの頃、あんなアニメがあったよな… って思い出してももらえるような。そういうセンがめざしたかったので、第二段の『知ったかぶりカイツブリ知ってるもん』では、子どもたちのダジャレを募集しました。

♪ボク知ってるよボク  
知ってるよ知ったかぶ  
り

醒ヶ井に サメはい  
ないよ

おしべもめしべも石  
部が好きだよ♪



へ『知ったかぶりカイ  
ツブリ 知ってるもん  
！』より抜粋〉

辻村 子どもは、言葉  
遊びが好きですよね。  
大人になると、こうい  
う感性が薄れてしま  
う…。

西川 以前、インタ  
ーネットで、ダジャ  
レをモチーフにした  
絵本を100本作った  
んです。子どもたちが  
投稿してくれた『恐竜  
が今日、留学した』み  
たいなダジャレから、僕らがインスピ  
レーションをもらって。この仕事はス  
ポンサーがまったくないなくて、自分た  
ちがやりたいがためにやった仕事なん  
です。他で儲けた利益を投資して(笑)。  
でも、子どもたちから大反響があって、  
結果、四〇〇〇個のダジャレが寄せられ  
ました。この経験があったから、子ども  
の参加を広げる設計図が描けたんです。



目と目を合わせれば「知ったかぶり〜♪」 (左)藤井氏 (右)西川氏

### おもしろいからやっちゃった！ 利益よりやや衝動を追求

辻村 それにしても、スポンサーゼロで  
始めるとは、リスクが高すぎませんか。

西川 そうですね。でも、僕はそうい  
うことをやる会社なんです。「おもしろ  
い」という衝動が先で「おもしろい、を  
ビジネス化する」というのが後にくる。

つじつまは後で必ず合  
わせますという姿勢で  
す。好き勝手にやるの  
とは違います。BBC  
さんとの事業にしても、  
ビジネスラインに乗せ  
るという使命と、地元  
のモノにおもしろく、可  
愛くスポーツをあてる  
という使命があって、  
ミッションの重大さで  
いえば、僕たちにとつ  
ては前者より後者がや  
や上回っているんです。  
比率でいえば、四・五  
と五・五ぐらい。

辻村 そういう純粹さが、クリエイタ  
ーの方には必要なだと思えます。で  
も、二枚目のCDに収録されている『バ  
ンボン赤こんにやく君』なんて、よく  
クローズアップしようと思いましたがね  
(笑)。

西川 地元の人にすれば、赤こんにやく  
が全国区の食べ物じゃないと知ったと  
きのショックって、あったと思うんです。

そういうことを真面目に伝えたら、おもしろくも何ともない。でも、普通に見たら可愛くもない赤こんにゃくだけれど、地元では確固と居座ってますよね。名産品としてキラリと輝きながら。そういう「可笑しみ」みたいなものを、おもしろくとか可愛くクリエイティブすることで、キャラクターとして成立するんです。

**辻村** 赤こんにゃくの販売促進とか、そういう意図は込めておられないのでしょう。

**西川** 『藤井組TV』に登場するキャラクターは、お金儲けや大人のしがらみとはいったん離れたところにあります。また、真剣にクリエイティブそのものを大切にしながらも、結果的には儲かる仕組みをきちんと構築するので、いわゆる“ゆるキャラ”とは、一線を画していると思います。

### 滋賀県のミドルティーンの女の子たちを可愛くする歌

**辻村** 同じく二枚目のCDに収録され

ている『安曇っ子ベリーガール』には、特別な思い入れがあるそうですね。

**西川** 思い入れはどれにもあるんですが、全24曲中、魅力的な女の子の歌というのを、7つのエピソードで7曲収録しています。『安曇っ子ベリーガール』はその代表的な歌で、これも安曇川の女の子の投稿を元ネタにしています。安曇川のバイパス工事はいつ終わるのかな、とかですね。安曇川の特産品のアドベリーをもじって、安曇川の女の子をフューチャーした、とにかく可愛い女の子の歌が作りたかったんです。僕は滋賀県に暮らす中学生ぐらいの女の子を、ときめかせたいんです。

**辻村** それはどういう思いで？

**西川** その年代の女の子って、素敵な恋愛や自分をキラリと輝かせるものを、どうしても都会に求めがちなんじゃないかと思うんです。でもね、それは地元でも育むことができるんです。大事なのは素直な優しい気持ちで、自分の周りを見ること。つまり、滋賀県で可愛くなつてほしいんです。それが実は、滋賀県を素敵にするんです。ちょっと

付け足しっばいですが。もちろん、京都や大阪、東京に行くのもいいんですけど。

**辻村** まるで心のまちおこしですね（笑）。

**西川** ものの見方ひとつで、日常の中に素敵なこと、おもしろいことは沢山あるんです。でも、斜に構えた心では、気づきもしません。まちおこしといっても、「つまらん町や」ってそれで終わりです。素敵なことを見つけようと思ったら、その町の人が、まずクリエイティブな意識を発揮することやと思うんです。どうやって？と思われるかもしれないけど、今それを、藤井組のキャラクターが先導してやってるんです。一緒にやろうって呼びかけてるんです。

**辻村** 普通すぎて気づいてないことが多いんですよ。『知ったかぶりカイツブリ 告白の唄③』の歌詞で、♪びわ湖の反対側に行くとなつて自分の家さがします。これなんか、まさにそれです。言われてはじめて気づいて、笑ってしまいました。

**西川** 日常の中というのが大切なんで

す。だから、行政や企業が音頭をとった町おこしには、そこに日常がないものが多いでしょ。そうすると一過性で終わりです。日常っていうのは、お母さんが子どもを幼稚園に送り迎える道の途中とか、そういうことでしょ。僕が考えるまちおこしは、大きなことを大きくやろうとするのではなくて、今この瞬間に、目の前にあることから始めることです。それが何かを変える力に育っていくと思うんです。

### 成功するためには、本当に“やっちゃおう”“リーダーが必要”

辻村 さて、先ほどつじつまと言われましたが、キャラクタービジネスはスポンサーがついたり、キャラクターグッズの売上げで利益が生まれるわけですよ。売れるキャラクターは、どこが違うのかしら。

西川 やはり一番は、「やっちゃった！」というぐらいの勢いがないと、結果話題にもならないし、盛り上がりにも欠けてしまうと思います。

辻村 地域性や文化性、道徳上とか教育上とか、あれこれ意味を持たせようとする、中途半端に魅力のないキャラクターができてしまう。

西川 キャラクタービジネスとして成功を収めるには、だからこそ本当に“やっちゃおう”“リーダーが必要なんです。僕たちは、社内のものづくりブランドとして『藤井組』を2005年に立ち上げ、その名前をテレビでも前に出しています。例えるなら、ミッキーマウスも必ずウォルト・ディズニーと一対でしょ。藤井組もそれと同じで、カイツブリや赤こんにやく、まだまだ何が出てくるかはわからないけれど、滋賀県を楽しもうとする姿勢だけは変わらない。そのイメージを定着させることですよね。

辻村 ところで西川さんは、会社の社長ですよ。なぜ『西川組』としたのですか。(※藤井組の名前は、会社設立時からの西川さんの相棒、取締役副社長の藤井慶さんのお名前から。藤井さんは作品のストーリー等を担当するブランド責任者です)

西川 僕が思うに、社長がエースで四

番で、ルールでジャッジになったら、それは悪い意味での中小企業の始まりです(笑)。藤井組は原作・シナリオ・作詞等々を手がける書き手をはじめ、それぞれがエースストライカーになってもらわないと。社長はプロデューサー役にまわって、主役になるべきではないんです。

辻村 藤井組さんのホームページを見ると、アニメ番組やweb漫画、ゲームに動画にほかにもあれこれと物凄い仕事量ですね。アイデアが尽きるという心配はありませんか。

西川 僕らは凡人の集まりです。何をもって自分たちのアイデンティティとするか。他者との違いを見せつけるか。これはもう数だ！という話になるんです(笑)。毎月、動画だけでも百本以上を手がけていますが、一つや二つ突出しておもしろい作品があっても駄目なんです。全部が一定のレベルに達していないと。これはもうバイタリティでこたえ続けるしかないんです。アイデアは出して出しまくる。出すからこそ、新しいものが入ってくるんです。



人気のキャラクターグッズ、売れてます

「お知らせ」

辻村 西川さんは良い意味で仕事の鬼ですね。  
 西川 僕はいい会社をつくること以外にはあまり興味もないし、ロマンも感じない。それしかしたくない(笑)。会社という仕組みで何かミラクルを生み出す、その設計図を描きたいんです。

- ◆びわ湖放送にて放映中！  
 『藤井組TV先攻』  
 毎週金曜夜6時50分から  
 『藤井組TV後攻』  
 毎週土曜夜10時50分から
- ◆CD&DVD第弾と第二弾が発売中！  
 『知ったかぶりカイツブリ』  
 『知ったかぶりカイツブリ2』  
 ともに¥1,9980(税込)
- ◆知ったかぶりカイツブリをはじめ、作品満載のHP！  
 藤井組クリップ  
<http://www.fujigumi.com>

辻村 今日、ニュータイプの企業家を見た思いがします(笑)。今後を楽しみにしております。ありがとうございました。  
 西川 ありがとうございます。



●にしかわ こう11969年京都市生まれ。幼少の頃、滋賀県に引越す。大阪市内の求人広告制作会社にライターとして勤務。滋賀県にUターン後、1996年に広告制作事務所を創業。2000年に守山市で株オコシヤ・COMを起業。携帯電話を活用した「こ近所サイズ」のIT活用で地域活性化をめざす。2004年、社名を株まちおこしに改称。その後、コンテンツ事業へ進出し、事業内容を拡大するなか、2005年に、おもしろ作品づくりに特化した社内ブランド「藤井組」を立ち上げ現在に至る。



石津 大輔

針江のんきいふあ〜む

松山 剛士

ソラノネ紀伊國屋

# 食への感謝を 広げよう!

## ソラノネ紀伊國屋の料理教室

少しの手間と時間をかけて、まだ何も加工されていない材料から、食べることを楽しんでみませんか。手間と時間をかけるほど、「いただきます」や「ごちそうさま」の感謝の気持ちが強まります。

■安曇川町泰山寺 ソラノネ紀伊國屋／高島市

■2008年12月



青空に「ソラノネ」

## 泰山寺野の眺めとソラノネと

### 米味噌作り教室へ！

12月中旬の日曜日、安曇川町泰山寺にある「ソラノネ紀伊國屋」（以下、ソラノネ）で、米味噌作りの教室が開かれた。

ソラノネは、ブルーベリー園と畑と、可愛い外観のソラノネ食堂、そして食堂脇の屋根付き野外キッチンからなる。このキッチンには「愛農かまど」と呼ばれるかまどが数基設けられ、ソラノネのシンボリックな役割を果たしている。

周囲は、泰山寺野と呼ばれる広大な畑地が続く。標高二二〇メートルの高台にあるこの場所は、戦後、食糧増産のために新たに開墾された土地なのだそう。ほぼ全方位、見晴らしが良く、しばしば北海道の眺めにも例えられる。ソラノネの松山剛士さんも、この土地がブルーベリーの栽培に適した土壌であるのもさることながら、この場所のスケールの大きさに惹かれ、ここからソラノネをプロデュースしていくことを決めたそう。

2008年4月のオープンから、こ

の日のような教室やイベント等が、毎月のように継続して開催されている。

### こだわりの材料と、 二十代、三十代の参加者たち

参加者の到着を待つ間にも、かまどはフル回転で大豆を炊き上げる。今日使用する大豆と麴用の米は、安曇川町針江の石津大輔さんが、「針江のんきいふあーむ」と名づけた家族と作る田んぼで収穫したものだ。無農薬・有機栽培で丹精込めて育てたものだからこそ、石津さんは水と塩にもこだわっている。水は地元でも知られた秋葉の湧水を、塩は1kgで約三千円という越前塩を準備してくれていた。味噌の代金は、1kgあたり一〇五〇円。参加費用は他の味噌教室と比べれば少し割高だが、材料を考えれば、納得の価格だろう。

味噌作りのレクチャーを受け、早速作業開始。麴に塩を加え、ほぐすように混ぜ合わせる。つぶした大豆を加え、しっかりと混ぜ合わせる。この日集まった参加者は二十代、三十代の友達づれ



① 麴をほぐし塩をまぜる



③ 麴大豆をまぜてコネコネ



② ミンチした大豆を投入



④ まぜまぜ完了、だんごにします

や夫婦など、とにかく若い。大阪市や高槻市など、都市圏からの参加者も目立つ。ゆえに、こうした一昔前には珍しくもない作業も参加者には実に、新鮮。自然と笑みがこぼれる。特に、味噌をおにぎりのようにギュッと丸め、空気を抜くために、容器に投げつけるようにして詰めていく作業は、力強く、

手元の正確な参加者に、周りの注目が集まる。

今日仕込んだ味噌は、一年寝かせて、ちよほど今頃の時期に食べごろとなる。同じ釜の大豆であっても、それぞれの家の空気になじむあいだに、我が家の味へとそれぞれに育っていくのだろう。

### ソラノネの「かまど」に対する思い

午前中に作業は終了し、参加者全員、ソラノネ食堂でお昼をいただく。メニューは鹿肉のカツレツや、ふるふき大根など。大根は泰山寺の特産品で、鹿肉は隣の朽木村で仕入れられた。かまどで炊いたご飯のおこげもおいしい。普段のソラノネ食堂では、毎日11時30分頃、かまどのご飯が炊き上がるそう。気軽に味わえる「かまどご飯セツト」をはじめ、事前に予約すれば「かまどでご飯炊き体験」(有料)もできる。毎月、こうしたイベントを企画することへの思いや、かまどへのこだわりを松山さんに聞いてみた。

### 「食とエネルギーと」「ミニケーション」が三つの柱

**松山** 私たちは単なる飲食店ではなく、ブルーベリーの栽培から始まった※会社であるように、自分たちの仕事の基礎は農業だと思っています。

泰山寺の土地で、ソラノネを手がけるにあたって、自分たちで育てた野菜や地元の食材を使うこと、さらにかまどを用いることで、自立した食というものを、お客様に感じていただけるきっかけづくりができればと思っています。

そこから、ソラノネのコンセプトは「食とエネルギーとコミュニケーション」の三つを柱にしたいと考えついたのですが、そもそもかまどこそ、この三つすべてを満たしてくれる存在だと気づきました。

昔はおそらく、日本のほとんどの家庭が、かまどで煮炊きをしていました。畑でとれた野菜も、ほかの食材も、かまどの火にかけることで、命から食へと変わっていく。そういう意味でもかまどは、神聖な場所だったのだと思います。

ます。また、想像するにはかまどの前

では、お姑さんからお嫁さんに、おばあちゃんからお孫さんに、いろいろな知恵の伝達が繰り返されてきたと思います。

昔、日本の家庭には、かまどという神聖な場所があり、そこで大切な文化が育まれてきたことを、今の若い人たちに知ってほしい。料理教室やかまど体験をとおして、ソラノネからのメッセージを届けていきたいと思っています。

※ソラノネは天津市にある農業生産法人(有)ブルーベリーフィールズ紀伊國屋がフレンチレストラン、成安造形大学内にある「カフェ」に次いで手がける三つ目の店舗。

### 大胆な転身。石津さんが農業の道を選ぶまで

松山さんと石津さんが出会ったきっかけは、互いの親同士が滋賀県の農業生産者の輪の中で、かねてから知り合っていたことだ。松山さんの母親は、有限会社ブルーベリーフィールズ紀伊國屋の代表取締役社長・岩田康子さん。石津さんの父親は、生水の郷と呼ばれる



「ぼくも〜!」ぼうやも大はしゃぎ



(左) 松山氏と石津氏による説明(店内) (中) とれたて野菜の昼食 (右) ふろふき大根

針江の川の水質を守るため、早くから有機農法に取り組み、滋賀県流域治水検討委員会の委員を務めるなど、地域農業のリーダー的存在として活躍する石津文雄さんだ。親の背中を、仕事の先輩として見ていた点では、共通するものがあるのではないだろうか。

父の姿に共感した石津さんが、弟とともに父の指導のもと、ゼロから農業を学ぶ様子が、2007年の夏、NHK『かんさい特集』で紹介された。番組のタイトルは、「ふるさとをもう一度愛せますか——琵琶湖畔・水を守る農家の6か月——」。ご覧になった方もあるだろうが、その頃の石津さんは、平日は大阪の靱本町で、手縫いの革製品のショッブを自営するお洒落な若者だった。農業は週末だけだった当時と変わり、今は一〇〇パーセントの力で、家族と十八町の田んぼを作る。そんな転身を遂げたのは、なぜだろう。

## 食と農を明日へつなぐ

**石津** 十代の後半は、うちが農家なの





キッチンと計量



「え〜い」大豆玉の空気をぬくために投げます



かまどで炊く大豆はおいしい



泰山寺野をバックに参加者記念撮影

が恥ずかしかったですね。その反動のように、ファッションの世界に進みましたが、祖父の死をきっかけに、自分の中で何かが変わっていきました。祖父の死から、自分の生への意識が芽生えたように思います。好きで始めたファッションの仕事も、お金にこだわれば、自分の「好き」が次第に偏り出します。中国での大量生産や、去年の服がわずか一年で古着市場に出回る現実を見るうち、自分が望む生き方は、今の形じゃないと思うようになりました。

ちようどその頃、父と十年ぶりぐらいに、まともに会話したんです(笑)。何を話したかというと、僕はアレギーがあるのですが、父はそれが自分のせいだと言うのです。高度経済成長期に、自分たちは何も疑わず、合成保存料や着色料を使ったものを食べてしまったから、そのツケが、子の代にまわったと。でもそれで、僕らの世代が力強く生きていけないということは、絶対にはないと思うんです。働くことや食べることは、自分はどうやって生きていくのかと、初めて真剣に考えました。

それで、人間の根本的な欲求と向き合った暮らしがしたくなり、父に頭を下げて、実家の農業で使ってほしいと頼みました。

今、農業をする中で、いろんなことが少しずつわかってきました。米作りは文化です。作業の一つ一つに意味があり、その都度、教えられることが沢山あります。それをきちんと外に向けて示すことが、自分たちにとって大切なのではないでしょうか。その思いから、針江のんきいふあーむは『食と農を明日へつなぐ』ことを、自分たちの役割に掲げています。

## また一つ、食への感謝の気持ちが生まれる

松山さんと石津さん。スタイルはそれぞれに違うが、農業とは文化の源泉であることを若くして知り、その文化を楽しくやさしく、これからも多くの人に届けてくれるのではないだろうか。

松山 「かまど体験や料理教室の後、子どもたちが自分で作った食べ物に、愛着

を持ってくれるのが見てとれます。お腹いっぱい食べて、あまりはお土産にして家を持って帰ると言ってくれます。その姿を見るのが、一番嬉しいですね」

松山さんの言葉に、また新たに食への感謝が生まれた瞬間を見る思いがする。

### お知らせ

#### 『琵琶湖紀伊國屋塾』第二回を開催

M・O・Hの会代表の森建司が、持続可能な社会を形成する日本型経営を示唆しつつ、「限界を超えた経済行為は人を幸せにしたか」という視点で講義を行います。夜間になりますので、講義の前にお食事(希望される方のみ)も用意。

● 場所/紀伊國屋「結」

● 日時/3月7日(土) 17時30分受付開始

● 参加費/2500円(初回からの塾生は2000円)

● 食事/1000円(塾生は700円)  
※希望者のみ

● 主催/ブルーベリーフィールズ紀伊國屋

TEL:077-598-2623

ソラノネでゴ飯り  
美味しさと溢れを  
2008/12/14

松山剛士

● まつやま たけし 1975年京都に生まれる。1995年に中央大学総合政策学部に入学。2003年に滋賀に帰り母が経営する(有)ブルーベリーフィールズ紀伊國屋に入社。現在高島市安曇川町にある「泰山寺ソラノネ紀伊國屋」の店長。

食と農も  
明日へつなぐ

松山 剛士  
2008.12.14

● いしづ だいすけ 1981年生まれ。2002年大阪で古着屋オープン。2003年マロニエファッションデザイナー専門学校卒業。2006年滋賀へ戻り農業を始める。2008年米の栽培管理計画の全責任を父から譲り受ける。

● ソラノネ紀伊國屋II所在地/〒520-1217 高島市安曇川町中494-2-1

TEL&FAX/0740-3233750

営業時間/10時30分~17時

定休日/木曜日(年末年始)

http://www.soranone.jp

# ふれあい

## 第13回

### 『いのちに感謝』

中井 二三雄



お母さんのお友だちが、赤ちゃんを産みました。

でも、大変だったらしいの。そのお母さんは年をとってるし、生まれてきた赤ちゃんも、いろんな病気や障害を持っている、弱い弱い子だったの。

お母さんは退院できたけど、赤ちゃん

んはまだ入院中。だから、そのお母さんはパートに行く前に、毎朝、病院に寄るんだって。

ある朝、うちのお母さんがお見舞いに行ったら、そのお母さんがやってくるなり、いきなり赤ちゃんを抱きかえって、

「今朝も息をしてくれてありがとうと、涙を流してお礼を言ったそうなの。」

「へんなの。生きていて当たり前なのに。赤ちゃんにお礼を言うなんて」

私が言つと  
「そんなことはありません。生きてくても生きられない人もいるんだから」

とお母さんは、少しムツとして答えました。

「じゃ、私のことも生きていてくれて、ありがとうって思ってるの」

「もちろんだよ、元気でいてくれるだけで、お母さんうれしいのよ」

と、力いっぱい抱きしめてくれました。

中井二三雄

●なかい ふみお 1949年、守山市生まれ。広告・出版・映像関係の仕事を経て、1976年から著述業。滋賀県文化振興事業団発行「湖国と文化」編集長。大津市在住。



Brian  
Williams



「真野モーニング」ブライアン・ウィリアムズ



# お寺の門前に、 かつての賑わいを—

## 中山道守山宿、 広がる町おこしの"輪"

守山市守山の中山道沿いにある東門院で、昨年11月から毎月17、18日の観音さまの日に合わせ、17日は「門前アート市」、18日は「まほろば茶論まろん」が開催され、地元の話題となっています。活気ある町づくりに向けて、動き出した守山の取り組みをご紹介します。

■比叡山東門院守山寺／守山市守山  
■2008年12月



木の手作りかんざしが人気

## 比叡山の東の鬼門と、 守山宿の賑わいの変遷

東門院は、延暦7年(788)に、最澄が比叡山寺(後の延暦寺)を創建するに際し、東の鬼門を守るために設けられたのが始まりとされる。後に桓武天皇より「比叡山東門院守山寺」と命号され、「比叡山の東門」として山を守るの意から「守山」の地名がおこったとも伝えられている。

お寺の前の中山道を東へ歩けば、そこは往時の守山宿だ。中山道では「京発ち守山泊まり」といわれるように、京からの旅人は、守山宿で旅の最初の夜を迎えるのが一般的であった。宿の本陣・甲屋は、今では跡を石碑にとどめるのみだが、その存在は旅人にとって、特別な位置を占めていた。仇討ちの物語を題材にした謡曲『望月』の舞台に、甲屋が設定されたのも、多くの旅人に共通して記憶される場所であったからだろう。

また、江戸時代、最盛期の守山宿界隈は、京都、大坂とも比肩する一大商

業地であった。それから時が過ぎ、戦後昭和30年代までは、守山一番の商店街だったそうだが、今、その面影を探すのは、少々難しい。

## アートにふれる、 アカデミックに楽しむイベント

イベントを主催する「多世代交流推進事業プロジェクト」の石田みち代さんに話を聞いた。

石田「時代とともに、お寺が私たちの暮らしから、なじみの薄い場所になりつつあります。昔、お寺の大屋根が、地域の人たちにとってコミュニティの象徴であったように、こちらの東門院でも何かできないだろうか……。その思いで少しずつ積み重ねてきたものが、ようやく形になり始めました」

お寺を拠点に、地域の歴史的、文化的遺産を活かしながら、守山の新旧の住民がともにできることは何か?二つのイベントは、そのコンセプトをじっくりと抽出して、生まれたものだ。

「門前アート市」は、主に工芸の分野

で活躍する作家たちが、自分で出展し販売する。来場者との対話を楽しめるよう、各ブースは比較的ゆったりと区切られている。昨年、二度目となる12月の市には、32のブースが出揃った。

石田「600人を超える人出で、私たちも喜んでいたのですが、作家の皆さんいわく、32ブースならもつと人が集まっていいそうです(笑)。今後、出店数はさらに増える予定ですので、ぜひ気軽に足を運んでください」

翌日の「まほろば茶論」は、回ごとに企画されるアカデミックな内容が、早くも人気を集めている。ラインアップは、講談、落語、能、コンサート、写経など、どれも五感を研ぎ澄まして味わいたいものばかりだ。会場となるお寺の本堂が、また独特の風情を加える。

## 観音さまのご縁に導かれて…

中山道守山宿では、昨年夏に築140年を超える町家を再生した「中山道街道文化交流館」がオープンするなど、



木の手作りおもちゃで遊ぶこともOKでした

境内の紅葉の下、会話がはずみます



門前脇の江戸から続く和菓子屋「鶴屋吉正」、近年改装し1階奥と2階はギャラリーに。陶芸作家でもある若女将と縁の作家さんの作品が展示されています。





《変革 — ⑦》

地域活性化に向けた機運が高まっている。守山の町おこしに向けて、石田さんらの活動の輪が、一番の原動力だろう。

石田「行政の音頭とりだけで、地域を変えていくのは難しいと思います。やはり、地元の人たちがその気にならなと。このプロジェクトは始まったばかりですから、何より継続することが一番大切だと思っています。観音さまのご縁に導かれて、地域の人の輪を、大きく広げていきたいです」

平成の守山宿に、世代を超えた人と人とのふれあいが、戻ってこようとしている。そんな町の姿を、観音さまが見守っておられる。

東門院・守山観音様の縁日（行事予定）

		門前アト市		まほろば茶論	
H20	11月	17日(月)	18日(火)	上方講談①	旭堂南青
	12月	17日(水)	18日(木)	能・仕舞 田村キリ	金剛流・今井克紀
		23日(火)			
		こどもアートサロン	31日(水)	除夜鐘	
H21	1月	17日(土)	18日(日)	親子de写経の会	東門院住職
	2月	17日(火)	18日(水)	上方講談②	旭堂南青
	3月	17日(火)	18日(水)	コンサート(アイリッシュハーブ)	みつゆき
	4月	17日(金)	18日(土)	上方講談③&落語	旭堂南青+あやめ家楽狂
	5月	17日(日)	18日(月)	コンサート	(内容未定)
	6月	17日(水)	18日(木)	上方講談④	旭堂南青
	7月	17日(金)	18日(土)	落語	(内容未定)
			夏まつり～夏休み企画～		
	8月	17日(月)	18日(火)	法話&座禅～親子夏休み企画～	東門院住職
	9月	17日(木)	18日(金)	上方講談⑤	旭堂南青
	10月	17日(土)	18日(日)	落語	(内容未定)
	11月	17日(火)	18日(水)	コンサート	(内容未定)
12月	17日(木)	18日(金)	上方講談⑥	旭堂南青	

\*上方講談は南青氏創作による守山よもやま噺(中山道守山宿)

石田みち代

● いしだ みちよ 1947年草津市生まれ。2003年12月株式会社ルーブリック設立。代表取締役就任。

● 比叡山東門院守山寺II所在地/守山市守山2丁目2-46

JR琵琶湖線守山駅下車徒歩7分

● 多世代交流推進事業プロジェクト

<http://m-kannon.com>



昨年12月のまほろば茶論は「金剛流 能にふれる」と題して開催。金剛流能楽師・今井克紀さんの仕舞『田村キリ』を間近で見る機会に恵まれた



(左上) 路地が見える台所 (左下) 2階部分は古い建具を使い改装 (右) 改装された長屋正面、2階には松富代表理事。

M・O・H レポート5

〈変革「視点を変えれば世界が変わる」—⑧〉

# 古い長屋も路地も まちの大切な資源

長屋再生もったいないプロジェクト

清木 たくや

文筆家



玄関土間にはアウトレットタイルを使用。作り付けの棚と木の床が落ち着ける空間を生み出す。

大阪市内の中心にありながら、戦災を免れた昔ながらの古いまち並みが残る空堀地区。土地の勾配を活かした面白いづくりの町屋、迷路のように入り組んだ細い路地、軒先が肩を寄せ合う四軒長屋など、初めて訪れてぶらぶら見て歩くだけでも、住み慣れたまちに戻ってきたかのような、ノスタルジックな不思議な気持ちになってくる。

そして今、この空堀地区で展開されているのが、長屋のリノベーション（大規模改装）を通じて、地域・住民・企業が一体となってまちづくりの相乗効果を狙うという、全国でも前例のないユニークな事業、「長屋再生もつたないプロジェクト」である。主催者は、「からほり倶楽部・長屋すとつくばんくねっとわーく企業組合」（代表理事・松富謙一）活動の趣旨は、「『もつたない』という観点から、長屋も路地も石畳も、まちの貴重な資源ととらえ、長屋のリノベーションを通じて、持続可能な暮らしと社会を考える」というもので、二〇〇八年にスタートし、すでに事業の第一弾が実を結んでいる。大正時代

に建てられた五軒長屋のうちの一住居で一八年間空き家状態だった物件について、コンペ方式で購入者を決定し、八月に成約、一〇月には長屋公開のイベントも開催した。

リノベーションにおいては、企業の協力のもと、余剰在庫品の建築資材やリサイクル商品を有効活用するなど、床や壁から天井に至るまで、「もつたない」精神が隅々に行き渡っている。

例えば、タイル。メーカーで余剰在庫となってしまうた新品の商品は「アウトレットタイル」と呼ばれ、製品としての活用が可能なのに、毎年三〇万平方メートル以上（甲子園球場約二〇個分）も処分されているという。そこで、市場に還元して無駄な廃棄を少しでも減らせるよう、玄関の土間には、メーカーの協力によってアウトレットタイルが敷き詰められている。

企業組合代表理事で一級建築士の松富さんによると、日本における住宅寿命は三〇年で、イギリスの一四一年、アメリカの九十六年などと比べて恐ろしく短く、使い捨て状態に等しいという。



お屋敷再生複合ショップ「練-Ien-」。長屋すつくばんく ねっとわーく企業組合はこの中にある。

「住宅が資産として蓄積されないわけ、これはその地域だけでなく社会全体にとっても非常に大きな損失です」と松富さんは言う。

しかも、一軒の家を解体する際に出るゴミの量は約四〇トン以上といわれているから、日本の住宅事情が、環境面から見てもいかに好ましくないかも明らかだ。現在、昭和の面影を色濃く残す風情ある空堀地区の古いまち並みでも、空き地や廃屋が目立つようになり、マンション化の波も一向に衰えを見せない。

人と人とのつながりの希薄化によるさ

まざまな弊害が憂慮される昨今、「向こう三軒両隣」という言葉に象徴される昔ながらの長屋暮らしの良さや生活文化を大切にするという意味でも、長屋再生もつたいないプロジェクトの意義は大きいといえる。

## 清木茂之

● せいきたくや 1953年山口県光市生まれ。文筆家。北海道大学（理類）中退。情報通信、先端技術、産業遺産、田舎暮らし、まちづくりなど幅広い分野で、時代の「今」を探る取材執筆活動を展開中。著書／「田舎でスローライフを極める」学芸出版社、「NTR&DDの系譜」NTRアドバンステクノロジ（共著）、「アメリカ情報革命の真実」曜曜社出版（共訳）。

● からほり倶楽部・長屋すつくばんく ねっとわーく企業組合

大阪市中央区谷町6丁目17-43

六波羅真建築研究室内

TEL 06-6767-1906

FAX 06-6767-1904

<http://www.karahori-nagayama.net/>



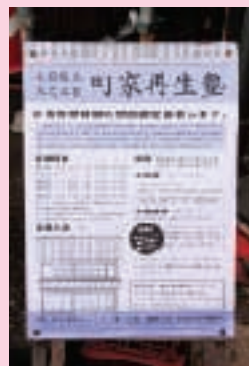
「屋根に登ったのは初めて!」瓦をふきかえる参加者

# 環人会ツアーvol.5

## 「湖北地域の古民家再生」

### 「古民家移住体験」

- ◆日 時／2008年11月22日(土)
- ◆場 所／湖北町田根区咲くら馬場  
木之本町・町家再生塾
- ◆集 合／JR 河毛駅
- ◆参加者数／15名
- ◆案内人／湖北古民家再生ネットワーク  
藤原加奈子・亀山芳香



町家再生のポスター



梅の古木(右端)が見事な咲くら馬場

今回の環人会ツアーの舞台は湖北地域。集合場所はJR河毛駅。「河毛」って何て読むの?とどこもある駅?と、土地勘のない近江環人の皆さんは少し戸惑ったようです。河毛駅は湖北町にあって、米原から西浅井までの湖北地域のほぼ中心に位置します。河毛駅から車を走らせること約10分。長浜市田根地区に到着。田根地区では、少子高齢化や過疎化に伴って生じて

### 集落を 活性化させるには…



「継続するための人材が必要」と中嶋さん

いる「空き家の増加」という地域課題の解決策として、地域福祉の推進と結びつけた空き家の活用に取り組んでいます。活動の中心メンバーである、田根地区地域づくり協議会の中嶋利明さんにお話を伺い、「咲くら馬場」を見学しました。

咲くら馬場は、地域の中心にある民家が空き家になって、朽ちていくのを待つのではなく、子どもたちからお年寄りまで、世代を超えた地域の住民が集って交流できる場所を作ろうという思いから開設されました。「しがきん福祉基金」を活用して下水道と給湯設備の工事をおこなった民家は、トタンを被った茅葺き民家で、昔ながらの佇まいを残していました。現在は、小学校の一斉下校に合わせ、毎週水曜日の15時から17時過ぎまで開放され子どもたちのふれあいの場になっています。「行けば誰かがいてしゃべれる場」にしたいと話す中嶋さんが入れてくださったコーヒーはとてもおいしく、庭にある小屋を使った「地域カフェ」への夢もふくらんでいるようでした。



町家再生の舞台となった町家

## 町家を再生する

午後の「町屋再生塾」の見学では、「地蔵のまち」として有名な木之本町木之本の空き町家の現場を訪問しました。

湖北地域は県内でも高齢化や過疎化が進み、空き家が目立つようになっており、地域のにぎわいが失われつつあります。ここ伊香郡木之本町も例外ではなく、かつて北国街道の宿場町として栄え、美しい袖壁やだつ景観の維持が難しくなっています。(うだつ川はりの上に立てる短い柱。火よけともいわれる。うだつがあがらない)とは活躍できないようすをいっ)

そのような中、2007年に実施された「都市と地方と移住交流促進事業」で活用を検討されていた街道沿いにある空き町家を、湖北古民家再

生ネットワークが引き受け、2008年の夏から実際に再生するプロジェクト「町家再生塾」\*を実施しています。

コンセプトは、建築や民家に関する専門家による修繕ではなく、古民家や木之本に興味のある都市住民の方と一緒に修繕を体験していこうというもの。2008年8月から計5回にわたって実施するうちの3回目を見学しました。参加応募者は予想を上回る18名。県内だけでなく、大阪、福井、岐阜などから毎回参加された方もいました。おおまかな修繕内容はトイレの設置、屋根と壁の補修で、これを設備班、屋根班、左官班、大工班に分けて、それぞれが一通り体験できるように実施しました。

設備班では、中嶋さんのユニークな指導により、畳と床をめくり、下水管の接続、配管作業を行いました。

屋根班は、普段上がることのない屋根で、瓦の種類や修繕方法について河越さんに教えていただきながら、瓦を一枚一枚取り替えていく作業を行いました。



(左上) 慣れた手つきの大工班 (中上) 壁を仕上げ中の左官班 (右上) 下水管を設置する設備班 (左下) 木之本町内を散策 (右下) 木工作業はむづかしい大工班

左官班は、漆喰の配合、こての使い方や塗り方など基本を教わりながら、壁を塗り上げました。指導は柴田さん。

大工班は、外壁の修理や、トイレを増設するための木工作業と組み立てを中川さんの指導のもとに行いました。近江獺人の講義(コミュニティプロジェクト実習②)が思い出されます。

このように通常ならば全く接点のない職人さんと一般の方々が交流しながら再生したこの空き町家は、今後はお試し居住や地域の活動の拠点として活用していく予定です。

\*「町家再生塾」は2008年度「2000年住まい・まちづくり担い手事業」の助成をうけて実施しております。この事業は国土交通省の補助を受け、財団法人住宅生産振興財団と財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団が共同で設立したものです。



# 異常気象

三山 元暎



さし絵：中川 善雄

歳時記の冬の季語で、寒さも峠を越して日増しに凌ぎやすくなり、春が訪れようとする季節や感じを「春近し」という。地名の由来は不詳だが、長浜市に「春近」という地名がある。一説に上古は春遠村と称したが、のちに春近村と改めたとある。(坂田郡志)

「春遠し」より「春近し」のほうが、たとえ、湖北の山々に雪が積もっていても春を待つところが伝わってくる。

夜半の月がえず明るし春近き 貞

米原市にも、語源は季節感によるものではなさそうだが、「春照」といい地名がある。

例年、湖北では三月上旬、啓蟄のころ、ウメに続き、ヤブツバキが花を咲かせる。

どれどれ春の支度にかかりませう、赤い椿が咲いたぞなもし

北原白秋

あぜ道では空色の小さな花をつけたオオイヌノフグリに続いて紅紫色の花を咲かせるホトケノザが定番を待つ。ところが、ことしは異常な暖冬。雪の

しい雪を見ぬまま「春遠し」と感じたり、「春近し」と感じる間もなく「春来るといった感じがする。

なんと、一月半ばに在所の至る所で点々と咲くオオイヌノフグリやタンポポの花を見かけた。二月の半ばにはウメの花の蜜を求めて、ミツバチが遊泳しているではないか。

この異常気象、ないがしろにしていると、やがて人類は滅びの道を歩むことになる。

つやがと遠く湖畔の便りかな 登高亭

## 三山 元暎

●みやま もとあき 1940年滋賀県坂田郡山東町(現・米原市)生まれ。長浜市の理事・経済部長を経て1995年8月から2005年2月まで山東町長。同月14日米原市誕生にもない退任。真宗大谷派真勝寺住職。

●なかがわ よしお 1936年生まれ。滋賀県展、長浜市展、伊吹を描く絵画展など人賞、入選歴多数あり。税理士。

# 山村は 雪が降っても大丈夫の巻

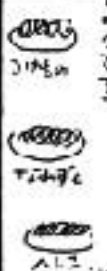
作 村 沖



これがめし漬けになる。



冬はお店に行かないので、漬けものなどの保存食が必須だったよ。



この大豆屋の漬けもの。



おまわす  
来な気は...



冬のため捕足



毛ウリやカキをぬか床に漬ける漬けものは



おろは



どぼ漬け  
という。

「ぬか漬けは、大根や赤かぶを、米ぬか、唐辛子、塩などを漬けてる。」



一月以上、町西にこめけてきまがるものです。



おまわすしんじいさん

数ヶ月以上漬けるので、しわわにならな大根や赤かぶを、カキお酢で漬けたものを「どぼ漬」といいます。



冬への備え その2.

野菜の保存



秋にたたくの野菜が...

大根、白菜...



ナニヨロシ...

これらも冬の間に、家の軒下にはりこいておく。







●オノミツキ（本名加藤みゆき）11974年生まれ。滋賀県志賀町育ち。1997年に朽木村（現高島市）に移住。朽木の自然、行事、人などさまざまな本にまごめ出版。現在は、人のまごめを子育て中。

## 猫のワークシェアリング

畑 裕子



イラスト:徳永 拓美

猫嫌いな方はどうか眼を瞑っていたきたい。また団地のお触れに忠実な方もどうか寛大なお心を。というのはノラ猫に敵しい眼を向けるのはどこの団地でも同じであろうから。あえてこ

んな書き出しで始めるのは私の心に負い目があるからである。

我が家の周囲をノラ猫がうろつくようになってからどのくらいになるだろうか。若々しい、美猫ではない。瘠せ衰え、眼やにを出し、どうみても老猫の相である。我が家にも元ノラ出身の老猫が同居している。その餉い猫メイがノラ猫の哀れな声を聞きつけて窓辺にやってきた。戸を開けるとくたんの猫がいたのである。茶と黒の混ざったノラ猫が訴えるような眼を向けている。その途端 我が家のメイがフウと威嚇したのである。

だが、ノラは逃げなかった。メイなど眼中にないかのように必死で私に絶っているのである。そのうちメイは諦め、去っていった。今度は私の葛藤の

番である。団地の回覧に、ノラ猫に餌を与えないようにという一文があったのが脳裏をよぎった。ノラの眼は依然としてどうかお慈悲を、と私を見続けている。

幼い頃から家で猫を飼っていた私にはおおよその猫生涯が理解できる。目の前の猫は老猫であることは間違いない。それなら子猫を産み、団地の住人に迷惑をかけることはあるまい。それにどう見ても余命幾ばくかのように思える。人間の得手勝手な考えを私はこねくり回し、なおもノラの視線に耐える。とうとう堰え切れなくなった時、助け舟が現れた。比叡山横川の恵心僧都源信の言葉が甦ってきたのだ。「命がまだ絶えていないのに見捨てておくのは大変な罪作りで、余命がある間はたとえ一日でも二日でも大切にしなければならぬ」。

私はにっこりしてノラに餌を与えた。ガツガツ食べる様子を見ながら我が家の飽食の猫を思い、猫の運命というものに思いを馳せる。満腹になった

のかノラは去っていった。ところがその日の夕方ノラは再びやってきたのである。そうなるだろうとおおよその見当はついていた。だが、決然とした態度がとれなかった私。「メイ、悪いけれどノラちゃんに餌をわけてあげてね」言い訳をしながら再び夕食を与える。メイは少々免疫ができたのか、それとも同族の悲しみが理解できたのかフウをせずに私のかたわらでノラを眺めている。

「お母さんは甘いなあ、ノラ猫に嵌められたんだよ」夫は言う。「でもね、ヨーロッパでペストが大流行したのは猫を悪魔の使者だとして追い払ったからネズミが増えたのよ」私は屁理屈を言って立ち向かう。そのうち私のペーヌになることがわかっていいるからだ。かくして猫のワークシェアリングならぬフードシェアリングが始まった。数か月経ち、痩せこけていた猫が心持ちふっくらしてきた。根っからのノラ猫暮らしたのだらう。餌を貰いはしても警戒心は忘れない。背を撫でさせ

はするが抱っこしよつとすると逃げてしまつ。

師走に入りノラの餌を食べる量が減ってきた。寿命が近づいてきたのかもしれないと気がかりではあったが、食事時には決まってやってきた。そのうちくる回数も減り、とうとう年末には姿を見せなくなったのである。飼っている猫がノラがきていた時刻になると戸を開けてくれと催促する。「ノラちゃんはずきつとあの世に召されたんだよ」と言い聞かせても悲しいかな通じない。しばらく外を眺めたり、ときには外に出て探しているよつな気配である。

新しい年を迎えてもメイの挙動は続いている。そんなある日の夕暮れ時、テレビの画面に派遣切りのニュースが大々的に放映された。私はかたわらのメイにつぶやいた。人間のワークシェアリング（仕事を分け与える）はどうなっているのだろうか。メイは女主人の気持ちが通じたのか、抗議口調でフニャフニャ言つたのだった。

畑裕子

●はた ゆつこ 1948年京都府生まれ。奈良女子大学文学部国文科卒業、京都で国語教師を勤める。その後、滋賀県に転居。1993年・第5回朝日新人文学賞受賞、1994年・第14回地上文学賞受賞、滋賀県文化奨励賞受賞。主な著書「画・変幻」「近江百人一首を歩く」「椰子の家」「近江戦国の女たち」など。日本ペンクラブ会員。

徳永拓美

●とくなが ひろみ 1949年生まれ。日本画を学ぶ。日春展、京展、新興展、滋賀県展に入選を経て挿絵も描く。「いぶきのやさいろつ」（京都新聞社）、「守山の野鳥ガイドブック」（守山市立教育研究所）、「甲賀のむかし話」（サンライズ出版）、「イルカをおそった黒い波」（汐文社）など。レイカディア大学「手作り紙芝居講座」講師。

〈商家の家訓の話 第八回〉

# 近江大店の店員養成と人物評価

末永 國紀



安永3年(1774)の奉公人請状  
(矢尾喜兵衛家文書)

近江商人の奉公人制度は、在所登り制度とよばれる。それは、近江店の奉公人のほとんどは近江の出身者であったので、奉公中に在所、すなわち故郷の近江へ何回登ったか、帰郷した回数が重要であり、登りを重ねることと店での昇進が結びついた制度であった。

江戸時代の奉公人は、地縁・血縁を頼りに保証人を立てて入店を申込み、許可されると、奉公人請状を差し入れた。この請状には、本人の名前・年齢・親元

・宗旨・保証人名が書き込まれ、入店誓約書であると同時に身元引受状の性格をもっていた。内容のほとんどは、奉公人の側の守るべき条項や約束である。店員の一般的な階層は、丁稚↓手代↓番頭↓支配人↓別家からなっていた。一二歳前後で入店した者は丁稚と呼ばれ、家内雑役に従事した。一五歳頃に半元服となり、額に角入れ<sup>すみい</sup>をして、名改めが行なわれ、給金も出るようになる。



半元服の角前髪(額際を剃ることを角入れという、  
『守貞謄稿』)

入店後五年位で、五十日ほどの初登りと称するはじめての帰省を許され、勤務状態の良い者は元服して手代に昇進する。手代は販売・接客・金銀鑑別・符牒を覚え、業務一般を見習う。二度登り、三度登りと登りを繰り返しながら、主に仕入を担当する番頭に昇格し、首席番頭が支配人になる。



支配人を三年〜五年務めると、三五歳位で宿入りといわれる別家となる。別家にも独立して商いをおこなう独立別家と、独立別家よりも上格の日勤別家があった。

以上は、子飼いだまの在所登り制度の一般的な例であり、入店から別家となるまで二十数年を要する長い奉公生活であった。現代流でいえば、OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）という配置転換をおこないながらの店員養成であるが、途中の挫折者は五割を超えろという、厳しい人材選抜制度でもあった。

人物評価においては、間に合う、間に合わないということ、つまり機械で能力があるか否かが重視された。能力評価の事例をいくつか挙げてみよう。店の拡大発展期におこなわれた、中途採用者の評価でも次のように述べられている。

年上の者（中途入店者）、後より参り、早く間に合い候ゆえ、先に参り候者（子飼いの者）より上の段にあい成り候ことこれ有り、この儀決して論ずべからず

〔外村与左衛門家「作法記」安政二年〕

中途入店者の能力が高くすぐに役立つので、子飼いだまの上席になつても、あれこれ論じてはならないといふのである。反対に、間に合わない者に対しては容赦なく厳しい評価が下された。彦根の関東出店に勤務する富吉という店員の場合、「一六歳の年、初登り頃にも未だ間に合い申すべき人物にあり見え申さず、はなはだ鈍き者にこれ有り候」と、手厳しい勤務評定がおこなわれている。

中井源左衛門家の「家方要用録」（年紀不明）では、店員の賢愚の見分け方について、「大体一七、八歳にて賢愚あい分るべく候へば、このところにて処置いたすべく候」と述べ、五年ほど育ててから資質の賢愚を見極めようとしている。しかし、万事が能力主義一辺倒ではなかった。外村与左衛門家の「心得書」（安政二年）は性格を重視して次のように述べている。

人並の働きこれなき者は、尚々心正し

くいたすべし、自然その志に感じ、人におもわれ候えば、重き役にも趣くなり

一人前の力のない者でも、心菜えが正しければ、周りの人の信頼を得て、やがて重要な役にも就くことができる、と論じている。反対に、才知のみある人物を警戒して、「いかほど才知これ有り候ども、薄情実意これなき者へ支配申しつけまじく、このところ専要のこと」（中井源左衛門家「家方要用録」）と、人格のともなわれない才知だけの人間を店方トップの支配人役に就けてはならないと念を押している。能力とともに人柄が重視されていたのである。

## 近江商人に学べ 末永國紀

●すえながくにとし1943年生れ。  
同志社大学経済学部教授。経済学博士。  
（財）近江商人郷土館館長。  
著書／『近代近江商人経営史論』（有斐閣）、『近江商人』（中公新書）、『近江商人学入門』（サンライズ出版）

# 「人間の学」 (森信三先生著)を読む その五

井上 昌幸



今回は第二部「自分を育てる」から大切な箇所を抜粋して、項目毎にコメントを記述していきます。

## 十四 自分を育てるものは自分

○人生の師

・我々人間というものは「師」を持たねばならない。もしそれが終生を貫く「人生の師」だったら、それはこの世における最上のしあわせである。

・人生の真理について、身を以って探究しようとする人は、まず自分と縁のある人々の中で、自分が最も尊敬できると共に、どこか一脈相通じうるものを持つている人を「師」として立て、心を空しゅうしてその方に学びながら、しかも反面には、真に自分を育てる者は自分以外にはなく、この人生最深の真理をしっかりと身につけることが大切だと思っております。

まず自らを省みて、自分を育てるために何を為すべきかに「気づき・意識して・行動する習慣」を身に付けたいものです。安岡正篤先生は、古今東西を問わず尊敬できる人物を持ち、その人の生き方を学ぶことが大切であると云われています。身近な親・先生・知人・上司などであれば実際に見聞きしながら学ぶことが出来るし、古人であればその書籍を読んで学ぶことが大切でしょう。また京大の元総長の故平澤興先生は「自己との対話は、よく考えることであ

る。よく考えることは、感謝することであり、拜むことである。経験に執られないで、希望に向って情熱を燃やす、自己との対話をあなた自身で求め、これから一層努力と精進を怠らないように祈る。」と述べておられる。

## 十五 家庭・学校・社会

○家庭というもの

・自己形成の「場」となるものは、「家庭」と「学校」と「社会ないしは世の中」が重大な意義をもつと思うのであります。

・「家庭」という問題ですが、これが我々自身の人間形成の上に果たす役割が、いかに重大かという点は、おたがいに子どもの間は、殆ど気づかぬと違ってよいでしょう。つまりそれほど深くかつ大きいのであります。

○家風としつけ

・どうしたら「家風」というような、リッチな雰囲気をもった家庭をつくることができるか、そこにはやはり

(一) まず、第一に朝晩のあいさつ

(二) 第二にハッキリと返事をする

(三) 第三はハキモノをそろえる

という「しつけ」というものが行なわれているようでありませぬ。

○学校と社会

・学校というところは、

第一は人間として必要な一般的な基礎知識を身に付けさせること

第二は友人関係における修練を受けるということ

第三は大いに体の鍛錬をする

という三種の事柄を人間形成の場と云って良い。

・人が社会の一員となることによって受ける、その人間形成的な鍛錬は、何よりもその「厳しさ」にあるといつてよく、仕事を通して負うべき「責任」ということになりませぬ。

幼い頃の家庭環境が「三つ子の魂百まで」と云われるように、人生にとって一番大切なことであることは誰でもわかってのことです。その基本は上に記述されている「三つのしつけ」ではないでしょうか。家庭内での朝の挨拶から始まる対話で家族のコミュニケーションがうまく進むでしょう。更に、ハキモノをそろえる・椅子を片付ける行いは親が率先して実践してほしいものです。子供は親の云うことは聞かないが、親のすることはマネルと云われています、事実だと思います。このような習慣が幼い時に身につけば学校でも社会でも一人前の人間として立派に通用するはずませぬ。

## 十六 逆境の試練

○人間形成の主な要素

・我々人間が、一人の人間として形成される三つの要素、その第一は先天的なもので、その人の生地ともいふべき遺伝的な素質です。第二は「師」すなわちすぐれた指導者の指導を受けることです。

○逆境の試練

・すぐれた「人生の師」を得たならば、第三はそのさらに逆境の試練が必要です。  
・現実の逆境によって、鍛えに鍛えられて、自分の素質の中に混じっている色々な不純物を徹底的に取り除かなければなりません。

我々は若いうちに苦労を経験して、していいことと、してはならないことを身に付けることが大切です。荀子という人が「人には三つの不祥（よくないこと）がある。幼い時に上の者に仕えない、卑しい人が立派な人に仕えない、おろかな人が賢い人に仕えない。これらは人の三不祥である。」と云われています。幼い時に上の者に仕えないということは、いとけなくして敬うことを知らないということなのです。現在の子供たちは敬うということをしなくなり、自ら恥じることがなく、自分の行動を慎むことをしなくなってきました。早くこのことに気づいて幼児が上の者

を敬うことができるように家庭及び学校が変わっていかねばなりません。

## 十七 誠実の徳

○誠実ということ

・「誠実」という徳は、人間としての態度がよく打ち出されていると思うのです。

・誠実な人とは、その人の「言行の一致」、すなわちその人の言うことと行なうことの違わない人という感じがします。

中国古典「大学」の中に、「誠意」という言葉があります。中江藤樹先生はこの「意」を私意私欲であると解釈されて、「意を誠にする」とは私意私欲をなくして、生まれながらにして持っている明るく、清い心になることであると説いておられます。また、論語の中に「子四を絶つ、意なく、必なく、固なく、我なし」という言葉があり、孔子さんは私意私欲をなくす努力をされたと云われています。

## 十八 惻隠の情

○相手の立場になつて

・「惻隠の情」とは「相手の立場になつてみる」ことであり、相手の立場になつてみないうちは、物事を自分本位の立場から考えるので相手との心の溶け合い

がない。

「惻隱の情」とは「孟子」の中に書かれている言葉であり、「人が困っているのを見て、自分のことのように心を痛めるような、自己一如の心持ち」のことを云います。「思いやりの心」よりもっと深い情愛を示す言葉のようです。

## 十九 コトバの慎み

### ○コトバ使用のこと

・「辞を修めてその誠を立てる」とは、「誠」という徳を自分の身につけることであり、まずコトバを修めることから始めなければならない。

### ○良寛戒語

・自分に対する幾つかの戒めを九十ヶ条の箇条書きにしている。  
ことばの多き、さしで口、手柄話、はなしの長き、へつらう事等。

### ○慈雲尊者の十善法語

・徳川時代の名僧で人間として守るべき善行を十ヶ条挙げておられ、コトバに関するものが四つ入っている。  
・不妄語（ウソいつわりを言わぬ）  
・不綺語（コトバをあまり飾らぬ）

・不悪口（他人の悪口を言わぬ）  
・不両舌（人に告げ口をしない）

聖書に「初めに言葉があった。言葉は神と共にあった。言葉は神であった。すべてのものはこれによって出来た」と書かれています。人間にとって一番大切なコミュニケーションの手段は言葉であり、良寛さんや慈雲尊者の戒めは常日頃つい口から出てしまう言葉であり、大いに慎まなければならぬことであります。

## 井上昌幸

●いのつえ まさゆき 1940年1月1日生まれ。現在、滋賀県異業種交流連合会会長、STEP21（滋賀県シニアテクニカルエンジニアリングパートナーズ企業組合）専務理事、関西師友協会生活学塾講師、大津木鶏クラブ代表世話人、近江素交会代表世話人

# M・O・Hせんりゅう

2008ベスト4決定  
2009候補15内定



「おいしいしょと」、「MOHもつ」が出張しました。なんと特大パーパークラフトでMOHのキャラクターが立体化したのです（高さ1m50cm）。

会場は滋賀県立長浜ドーム、びわ湖環境ビジネスメッセ2008（2008年11月5日～7日）に出展した、新江州のブースにいました。

「おおつーちようご五年、焼肉店の店頭にせひ」とのお誘いもあったが、女子高生は「ヤバーハママッタ」よつで…。

いえいえ、目的は『MOHせんりゅう』なのです。もったいないい・おかげさま・ほどほどにを織り込んだ、せんりゅうを、つゝくって、えらんで、環境についてよく考えようという試みなのです。

たくさんの方が快く協力くださいました。本当にありがとうございました。その結果、去年募集したせんりゅうから『ベスト4』が決定しました（票数3007）

そして、今回は250作のせんりゅうをつくっていただきました。いずれも力作で、感動したり、笑ったり、うなずいたり、楽しい一時でした。

うち、『ベスト候補15』が決まりました。選定は（財）滋賀県青年会館主宰の「生き方探し」受講生の皆さんにお願いしました（2008年11月20日、長浜ドーム宿泊研修館にて）。

審査は困難でした。いずれも力作で、審査の皆さんを困らせました。2009ベスト15も、いい出来です。今後、投票でベスト3を決めていたたく予定です。

さあ、お待たせしました。

MOHせんりゅう2008ベスト4の発表です。

1位	「おかげさま」	「そう言うあなたに」	「おかげさま」	60才
2位	おかげさま	いやしの笑顔	和のこころ	60才
3位	ほどほどに	やっと気づいた	大切さ	21才
4位	ぐち言える	仲間の支え	おかげさま	60才

【講評】

1位と2位と4位が「おかげさま」を題材としています。3位が「ほどほどに」を取り上げました。今回は3位と4位が拮抗していました。わずか1票の差でしたので、4位も発表としました。今回は60才の健闘が目立ちました。

MOHせんりゅう

2009候補15を発表します

- ① もったいないで 貯えすぎた メタボかな
- ② 湯たんぽで 手軽にあったか エコスタイル
- ③ 子どもたちに 残そう 大事な地球！
- ④ 考えよう！ エコの楽しさ 大変さ

- ⑤ 足るを知る 生き方こそが カッコイイ
- ⑥ 物価高 買い過ぎ見直すイイ機会

お買い物はホドホドに

- ⑦ 損か得か？ 少しの損でも エコやろう〜！
- ⑧ 一人の力は 大きいエコに つながるよ
- ⑨ もうすこし スリムになろう 身と暮らし
- ⑩ 年末の整理 もったいないで 捨てられず
- ⑪ 未来の力 左右するのは わたしたち
- ⑫ もったいない 手にあまるほど もつもたない
- ⑬ ムダなくし きれいな びわ湖をいつまでも
- ⑭ もったいないと おもいながらも ほどをすぎ
- ⑮ もったいない うしなったら もったいない

今回の選定基準は形式よりも内容を優先しました。よって、せんりゅうの決まりから逸脱する作品もありますが、それもヨシです。皆さまで、15作のうち、ベスト3をお選びいただく予定です。

ちなみに、ペーパークラフトのMOHもつは、新江州本社内のeプラザでのんびりしています。お近くにくられた際は、お寄りください。喜んでお迎えいたします。事前のこー報はお忘れなく。TEL0749(72)8100で受け付けます。

# ごっこ遊びの道具たち

今関 信子



イラスト：千田 満

十二月末から、三才になったばかりの孫がやってきて、にぎやかな一週間を過ごした。

彼らは金沢に住んでいるので、数ヶ月の時間を置いて会っている。

今回、孫が頻繁に発した言葉は、「遊ぼうよ」だった。正月準備に忙しいので、「一人で遊べば」を繰り返す。彼は、「だれか、遊ぶ人」と叫んで、家中をめぐり、たいてい夫が調達されていた。

二才半の頃からその傾向が見られたのだが、三才になってごっこ遊びの楽しさを、完全にものにしたようだ。ごっこ遊びは、まねっこしながら、自分が捉えたものを、くみ上げる遊びだ。ごっこ遊びの先頭をきって登場してきた「お母さんごっこ」には、今回、料理の品数が増えた。新たに加わったものに、「お店屋さんごっこ」、「旅行ごっこ」、「お医者さんごっこ」がある。

中で面白かったのは、「お医者さんごっこ」だった。この時は、私が調達されている。

リン、リン、リン



「もしもし、お医者さんですか。」

「はい、そうです。」

「急に気持ち悪くなりましたわ。」

「すぐ行きますから、待っていてください。」

「ピーポーピーポー」

「救急車が来ましたから、大丈夫です。」

「先生おなかが変わります。それで、気持ちもわるいです。」

「では、診てみますね。わかりました。ウンチです。とればさっぱりして、気持ちよくなりますから、大丈夫ですよ。」

「はい。」

「気持ち悪いのは、すぐ取れますから、動かないで、待っていてください。」

動くと大変なことになりますからね。はい、これで大丈夫。」

一瞬、彼の自信ありげな態度が、理解できなかった。だが、次の瞬間、吹き出しそうになるのをこらえて、私は頭を下げた。

「わかりました。ありがとうございます。」

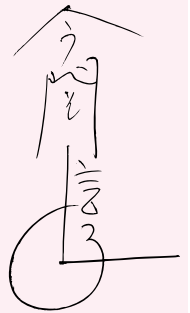
「お医者さん、おしり」でいまだに失敗する。そして、気持ち悪い思いをしているのだ。その体験が、みごとになったシーンになった。

「遊びの面白さは、「応用」にあるのではなからうか。体験のみならず、自分のものとなった見たもの聞いたものを、自由に組み上げて、遊びを構築していくのだから。」

「遊びの道具もまた、「応用」する力がある。お医者さんの聴診器は古いホースが、注射器は使い捨ての箸が使われた。夫のめがね、こわれた時計、捨てるはずの瓶、みな生かされて役目を果たした。」

今、私は、ものが捨てられない。役目を果たした物達が、出番となる時のために、頭を柔らかくして、これは何に使われるかなあ、などと「応用」の場面をイメージしながら、がらくた箱を大切にしている。

M. Senda



●いませきのぶこ1942年東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者協会理事。

＜主な著書＞「小犬の裁判はじめます」1987年 童心社 青少年読書感想文コンクール課題図書。「さよならの日のねずみ花火」1995年 国土社 青少年読書感想文コンクール課題図書、厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財。「地雷の村で王子屋」2003年 PHP 研究所 など多数

●せんだ みつる 1950年、滋賀県生まれ。大阪のデザイン会社を経て1980年「イラストレーションスタジオアビロード」設立。イラストレーションを中心にポスターやパンフレット等を制作、ロゴマークやパース・キャラクターデザイン等グラフィック全般、広告エディトリアルを中心に活動中。

# 講演日記

皆様のご支援でたくさんの講演依頼を頂きました。2008年11月～2009年2月の講演をダイジェスト版でお知らせします。

- 三重GNP倶楽部e  
ブラザ見守り&講演  
日時：11月18日  
主催：みえ・グリーン  
購入者倶楽部  
演題：企業だからできる環境問題への取り組み
- 会場：新江州株eプラザ  
参加：20名  
講師：森建司
- 公開講座  
「生き方探し」  
日時：11月20日  
主催：財団法人 滋賀県青年会館  
演題：もつたない・おかげさまで・ほどほどに、が環境と人間を育てる
- 会場：滋賀県立長浜ド

- 1ム宿泊研修館  
参加：32名  
講師：辻村琴美  
天使の活動60周年  
記念事業のお知らせ  
日時：11月22日  
主催：高月町立七郷小学校  
演題：「手から心へ花  
りレー」
- 会場：高月町立七郷小学校  
参加：100名  
講師：今関信子
- 琵琶湖紀伊国屋塾  
日時：11月29日  
主催：紀伊国屋 結  
演題：自由主義の境界を学ぶ
- 会場：カフェテリア 結  
紀伊国屋  
参加：35名  
講師：森建司
- 地域再生フォーラム  
日時：11月29日  
主催：滋賀県  
演題：まるエコ子ども  
くらぶ賞

- 会場：琵琶湖博物館  
参加：150名
- 社内・SO教育  
日時：12月4～5日  
主催：新江州株環境管理委員会  
演題：MOH通信とは
- 会場：同社会議室  
参加：26名  
講師：辻村琴美
- 執筆者懇談会14  
日時：12月15日  
主催：M・O・H通信  
演題：23号編集会議  
会場：やすべえ  
参加：18名
- 彦根翔陽高等学校  
日時：12月17日  
主催：彦根翔陽高等学校  
演題：生き方を学ぶ
- 会場：彦根翔陽高等学校  
参加：220名  
講師：辻村琴美
- 中小企業家同友会  
日時：12月18日

- 主催：滋賀県中小企業家同友会  
演題：経営者と従業員  
のワクワク夢探し
- 会場：長浜ドーム宿泊  
研修館  
参加：25名  
講師：辻村琴美
- バイオンキユベシ  
ヨン入居者懇談会  
日時：12月22日  
主催：長浜バイオンキ  
ュベシヨソセンター  
演題：企業経営の原則  
会場：同センター  
参加：20名  
講師：森建司
- 麦の家新春例会  
日時：1月11日  
主催：萬世協会 麦の家  
演題：自然との調和に  
よる人類持続への道
- 会場：麦の家  
参加：60名  
講師：内藤正明
- 八幡商業高等学校 社  
会人講師  
日時：1月22日

- 主催：八幡商業高等学  
校  
演題：女性として働く  
ということ
- 会場：八幡商業高等学  
校  
参加：40名  
講師：辻村琴美
- 「地域に根ざした脱温  
暖化・環境共生社会」  
研究開発領域 採択プ  
ロジェクトキックオフ  
フォーラム  
日時：1月26日  
主催：滋賀県琵琶湖環  
境科学研究センター  
演題：滋賀をモデルと  
する自然共生社会の将  
来像とその実現手法
- 会場：コラボしが21  
参加：100名  
司会：内藤正明  
パネラー：岩田康子・  
清水陽介
- 労働基準協会無災害  
事業所表彰  
日時：1月27日  
主催：労働基準協会長  
浜支部

● 演題・もったいない市場で創る未来の暮らし

● 会場・グラツチエ

● 参加・50名

● 講師・森建司

● SR事例

● 大阪シンポジウム

● 日時・2月3日

● 主催・日本規格協会

● 演題・中小企業とSR

● (社会的責任)

● 会場・近畿労働金庫新

● 本店ビルホール

● 参加・100名

● 講師・辻村琴美

● 第二創業アタックセミナー

● 日時・2月9日

● 主催・バイオビジネス

● 創出研究会

● 演題・今、この時を乗り切る術は何か

● 会場・浜湖月

● 参加・50名

● 講師・森建司

● あなたがつくる新しい物語

● 日時・2月16日

● 主催・大阪産業大学花田ゼミ

● 演題・中小企業だからできる循環型な企業

● 会場・新江州株エラザ

● 参加・10名

● 講師・森建司



● GAT彦根・

● 三水会2月度例会

● 日時・2月23日

● 主催・彦根異業種交流研究会

● 演題・中小企業にしかできない持続可能型

● 社会の企業経営

● 会場・大学サテライト

● プラザ彦根

● 参加・30名

● 講師・森建司

## M・O・Hニュース

### 【法事料理請け負い人気】

1月31日

日野町鎌掛で、法事の料理づくりを請け負う主婦グループ「かますけ工房」のサービスが人気を集めている。グループ代表の西岡久枝さんは「調理師も栄養士もいないが、主婦の技がある。地元の旬の野菜にこだわって、地域の食文化を伝えていきたい」と活動に励んでいる。

### 【湖国産木材で住宅建設推進】

1月5日

滋賀県産の木材を使った木造住宅を広めようと、県内の建設関係団体や県、市町でつくる「湖国すまい・まちづくり推進協議会」は、県産材を扱う材木業者と設計者、施工者

でつくるグループの登録制度を始めた。

### 【野洲、後継者いない農家6割】

12月14日

野洲市は市内の農家の現状や農業振興に対する意向を調査したアンケート結果をまとめた。後継者のいない農家は6割り近くを占め、後継者不足の深刻さが明らかになった。

### 【「グリーン購入」ガイドづくり大役】

1月5日

商品の購入の際、地域環境を考慮して選ぶ「グリーン購入」の実践を全国の自治体に広げるためのガイドブックづくりで、滋賀県立大学のグループ「グリーンコンシューマーサークル」(グリコン)が大きな役割を果たしている。グリコンは97年に設立され、学内外でグリーン購入の啓発や

実践を続けている。

### 【循環型まちづくり着手へ】

1月5日

東京の独立系投資信託会社今年、高島市で環境に配慮した次世代まちづくり「ヴィレツジ構想」の実現に乗り出す。事業収益から年間数億円を投じて、里山の風景を活かした住宅や文化ホールを整え、将来的には大学等の創設も検討する。

### 【太陽光発電で環境に優し<】

12月12日

甲賀市甲賀町神区がこのほど、地域のコミュニティー施設「里山かむら交流館」に太陽光発電システムを設置した。14日には交流館で完成記念の環境シンポジウムも開かれた。

一以上京都新聞

## イベント出展

MOH通信とMOHせんりゅう普及の一環として  
イベントにてポスター展示を実施しました。



おうみ未来塾10周年記念大交流会での展示

びわ湖まるエコDAY2008での展示

### びわ湖・まるエコ・DAY2008

滋賀県、湖国まるごとエコミュージアム推進会議、滋賀県立大学の共催による「びわ湖・まるエコ・DAY2008」が2008年11月29日〜30日、滋賀県立琵琶湖博物館で開催されました。

MOH通信も出展しました。出展団体は74を数え会場は熱い熱気に包まれました。

同時開催の「淡海ごどもエコクラブ活動交流会」には、16グループが参加しました。活動表彰があり、大賞は能登川南小エコスクール委員会。奨励賞に政所5年愛知川探検隊、常盤つ子エコ探検隊、おやおや？浜保クラブ、油日小学校エコ委員会、アイキッズエコアイデアKIDSびわ湖が受賞されました。おめでとうございませう。

### おうみ未来塾10周年大会

おうみ未来塾が主催する「おうみ未来塾10周年大会」が2009年1月17日、栗東芸術文化会館さくらホールで開催されました。

基調講演は「葉っぱビジネスが地域を変える」(株)いろどり代表取締役副社長 横石知一さん。

ポスターセッションには32団体が参加。MOH通信も出展しました。



たくさんのポスターセッション会場

# 本の紹介

最近入手した、気になる本・CD・DVD  
をご紹介します。

## BOOKS

### みくな100号



- 編集／長浜みくな編集室
- 発行／長浜みくな協会
- 価格／480円
- 内容／湖北の地域情報誌「知つてるつもり」の再発見。わ湖から「みくな」が100号を迎えた。あわせて協会設立20周年。特集は「100年後に残したい北近江100のええもん」。

### 戦中「学級日誌」―戦争下の小学生が考えたこと―



- 編集／吉村文成

- 発行／龍谷大学国際文化学部

● 内容／大津市歴史博物館に眠る昭和19年に書かれた学級日誌。瀬田国民学校5年組の女性たちが描いた。戦時下で「ゆりの花が咲いた」と喜ぶ少女たち。疎開のこともたちへの心づかい。忘れかけた日本の心が生き生きと甦る。

### CSRの基礎知識



- 著者／田中宏司
- 発行／日本規格協会
- 価格／1300円十税
- 内容／CSRとは企業の社会的責任を果たすこと。企業のブランド価値を高める取組みを解説。

### 市民のための環境監視

- 編著者／中地重晴・環境監視研究所
- 発行／アットワークス
- 価格／1800円十税



● 内容／日本で一番小さな研究所20年の軌跡。先駆的に取り組んできた市民のための環境調査。科学とは環境問題とは？実態調査を分析すると、解決できない問題が…。

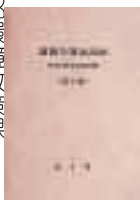
### 近江楽座のスヌ



- 編者／滋賀県立大学近江楽座学生委員会
- 発行／ラトルズ
- 価格／1800円十税
- 内容／学生力で地域が変わる4年間の軌跡。「人が自分です育つ大学」というアイデアは近江楽座という新たな命を吹き込まれていった「日高敏隆」楽座の教科書。

### 滋賀の環境2008

- 編集・発行／滋賀県琵琶湖



● 内容／平成20年版環境白書。豊かで美しい自然環境の保全に向けての調査資料。

### 近江湖(うみ)物語



- 発行／滋賀県教育委員会事務局文化財保護課
- 企画／大沼芳幸
- 編集／北村圭弘
- 内容／「水の浄土 琵琶湖」。「湖幸比古と豊湖比めの世界。」ともに文化庁の許可をえて、滋賀県文化財保護協会に委託し刊行。滋賀県の自然と歴史が「かさ」に記されている。CDもあわせて作成。「滋賀県文化財学習シート・遺跡編」史跡名勝天然記念物編」。滋賀県通にすること間違いなし。

# 「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」の発行に当たって

代表 森 建司

20世紀型社会は経済至上主義の時代であった。科学技術の進歩とそれに伴う工業や流通の発展は、世界的なスケールで人々に物による恩恵をもたらしたが、同時にバランスのとれた自然との共生社会を破壊した。経済至上主義とは物の豊かさを最高の幸せとして捉え、その対極にあるものの価値をほとんど消し去ろうとするものである。人々の価値観を情報操作で画一化して、特定のものに集中させようとするマーケット戦略は個人の人生観、社会観にまで侵入し、その独自性、不可侵性まで奪って行った。このことによって人々は哲学的な意味の自己をなくしてしまった。

今こそ新しい時代として循環型社会を作ろうとしているわれわれは、自己を証明する、こころとか思いを取り戻さなければならない。死生観や人生観、先祖や子孫、生涯をかける志、自己を自己らしく生き抜くための人生哲学など。そしてそれは自然との共生社会を目指すものであり、人としての真の生き様を問うものであらねばならない。

この実現のために

「循環型社会を目指す～MOH通信～」を発行する。

## 《 MOH通信概要 》

### ■目的

- (1) 循環型社会構築に向けた意識改革
- (2) 浪費型社会念の脱却
- (3) 人生哲学を学ぶ

### ■事業

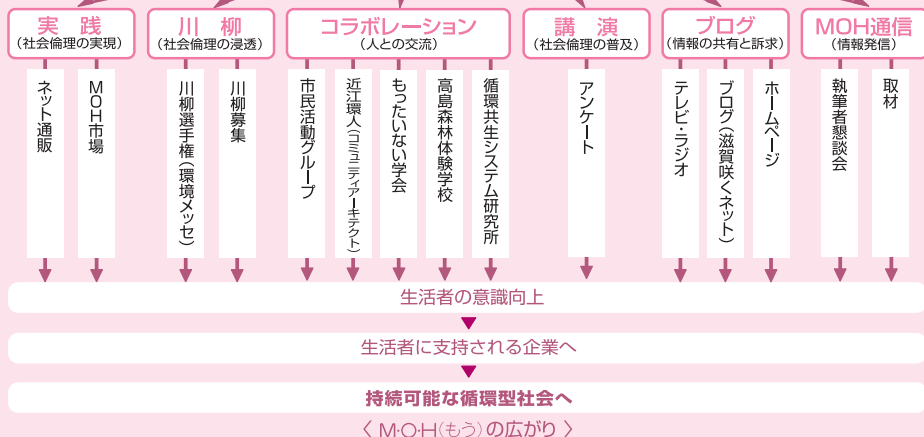
- (1) 通信の発行及び出版
- (2) 講演会、勉強会、シンポジウムなどイベントの開催

### ■事務局

〒526-0111  
滋賀県長浜市  
川道町759-3  
循環型社会システム研究所  
TEL.0749-72-5277  
FAX.0749-72-8681  
e-mail:tsujimura@shingoshu.co.jp  
代表:森 建司  
担当:辻村 琴美

## [ M・O・Hコンセプトシート ]

M・O・H＝循環型社会をめざす言葉  
(もったいない・おかげさま・ほどほどに)



## 読者の声

★「今関信子さんと三山元  
暎さんの文章が大好きで  
す。今関さんの「ピタゴ  
ラスイッチ」と三山さんの  
「路のとう」は子どもと一  
緒に楽しめました。

島田祥子（長浜）

★環境問題についての取り  
組みができるかと思わせ  
てくれるMOH通信。これ  
からも読み続けたい。

山城智恵子（大阪）

★早速にMOH通信をお送  
りくださり有り難うござい  
ました。いま70歳であと30  
年?! 生きる為の役に立ち  
ました。何か自然環境に良  
いことをして生きたいと思  
う様になりました。益々の  
御発展を祈念致しております。

木村邦彦（神戸）

★第22号の「もったいない  
滋賀の実現にむけて」に共  
感。学校や公共施設が率先  
して実行してくれればと願  
うものです。小生の自宅横  
には昔から変わらぬ小川が  
流れており、これで水力発

電ができないうものかと子ど  
もの頃から思っていました  
（実現出来ていませんが）。  
川といえは、昔は生活排水  
を直接川に流さず、穴を掘  
って地下浸透させて上澄み  
のみを流していた親父のこ  
とを思い出しました。下流  
の琵琶湖を考え、エコを実  
践していたいと思います。

片桐清司（高月）

★もったいない、おかげさ  
ま、ほどほどに。MOH、  
すてきな言葉ですね。

坂下靖子（高島）

★夢は語っても楽しい、そ  
してそれを実現するために  
議論をするのは本当に愉し  
いですね。「夢は他人を幸  
福にさせるもの」というよ  
うなまとめができました。そ  
ういう人を幸せにするもの  
が会社の理念や方針に行き  
つくのかなという気がしま  
した。「何のために経営を  
しているのか?」は最初に  
問われますが、これは究極  
は社員とお客様が幸せにな  
り、それが社会を幸福にし  
る。まさしく「三方よし」。

滋賀中小企業同友会（長浜）

## お知らせ

### ● とも自然体験遊び塾

日 時:4月4日(土) 10時~15時

主 催:絵本による街づくりの会

主 題:里山の春を歩いて、食べて、感じよう!

場 所:ペンションマキノと周辺の里山

申込先:0740-27-8156

参加費:会員300円、大人500円、小中学生  
200円

定 員:30名

備 考:水筒、おにぎり、雨具持参 小雨決行

### ● 第1回 ERPワークショップ

日 時:3月31日(火) 10時~17時

主 催:もったいない学会ERP部会

主 題:ERP評価技術者を育てる 一エネ  
ギーの『質』と日本の『プランB』一

場 所:東大 山上会館

申し込み:もったいない学会までメールで"3.31  
ワークショップ参加" 書きお申し込み  
ください

guest@mottainaisociety.org

(〆切 3月16日)

参加費:会員2000円、非会員3000円、学生  
1000円

## 《次号予告》

2009年5月末発行予定

### ■ 特集:人つくり

● 寄稿 / 「エコトピアを語る」アーネスト・カレンバック+  
内藤 正明+森 建司

● 寄稿 / 「ゼネラリストの育成」森孝之

● 取材 / 「経営道を貫く」山城経営研究所

● 取材 / 「長く愛されるパイン飴の秘訣」上田 豊

● 取材 / 「京都の町家保存を世界に訴える」小島 富佐江

● 取材 / 「大学生で僧侶」

● 連載 / 通常通り

※ 敬称略、予告なく変更いたします

## 編集後記

今回の特集は“健全な死”。校  
正真っ最中に、アカデミー賞を受  
賞した映画「おくりびと」の報が  
舞い込みました。取り上げるポイ  
ントは違えど、“生き死に”を正  
面から考える時代になったんで  
すネエ。(こと)

# 《M・O・H通信》受付中!

あなたも「M・O・H通信」を読んでみませんか。特典として、M・O・H通信、講演会のご案内をいたします。活動やこの通信について、ご意見もお聞かせください。

電話番号、fax(あれば)、e-mailアドレス(あれば)、あなたの心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書をお送りください。

あなたのお名前、年齢、郵便番号、住所、電

## 《M・O・H通信》申込書

フリガナ		年齢	希望冊数
お名前			
住 所	〒		
電 話	FAX	メールアドレス	
あなたの心に残った一言、MOH川柳をお書きください。			

※記入いただいた内容については、目的以外のことに使用または転用はいたしません。

キリトリ線

## M・O・H通信 Vol.23 (通巻24号) 2009年2月末日発行 発行部数5,000部

### ●編集・発行/新江州(株)

循環型社会システム研究所  
M・O・H通信編集局

代 表 森 建 司

編 集 長 つじむら ことみ

編集協力 稲垣 重雄

取 材 細井 美保

古田 紀子

デザイン 伊達デザイン室

写 真 辻村写真事務所

印 刷 新江州(株)情報C

ブ ロ グ 滋賀・咲くブログ

ホームページ 寺川 智美

### ●執筆者懇談会

内藤 正明 畑 裕子

海東 英和 堤 幸一

山田 朝夫 進 ひろこ

下西 康嗣 中村 誠

末永 國紀 笹山 千伶

花田 真理子 奥山 武生

弘中 史子 結城 美枝子

今関 信子 松崎 和弘

山崎 隆 井上 昌幸

三山 元暎 辻村 耕司

加藤 みゆき 佐々木 洋一

清水 安治 徳永 拓美

檀上 俊雄 中井 二三雄

中田エリカ 山口 美知子

(順不同・敬称略)

### ●ご協力

滋賀県

琵琶湖環境科学研究

センター

循環共生社会S研究所

高島森林体験学校

麻生里山センター

新江環人&環人会

もったいない学会

野洲生活学校

EEネット

中小企業家同友会

(順不同)

### ●支援

新江州(株)

〒526-0111

滋賀県長浜市川道町759-3

TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681

★ブログ 滋賀・咲くブログ★

<http://moh.shiga-saku.net/>

★ホームページ★

<http://www.mohmoh.jp/>

※記事中での写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。